令和 4年 5月31日開催
第575回 理 事 会可決
第176回 評議員会承認

学校法人福岡学園　令和３年度事業報告の概要

１.「口腔医学の学問体系の確立・育成」について

現在の歯学教育の高度専門化とともに一般医学教育を充実させた「口腔医学」を確立・育成することが、超高齢社会を支える歯科医学・歯科医療にとって重要であるという考えから、ディプロマ・ポリシーとして定めた能力に関して、各授業ユニットで何の能力を成長させることができるのか、学生に対しシラバスで提示しながら口腔医学教育を実践しています。

また、口腔医学の創設・育成を推進するため平成 27 年度に創設された「田中健藏基金」による第 6 回目の事業として、看護大学の看護演習で使用する未熟児モデルや短大の口腔ケア実習で使用するマネキン等を購入しました。

２．教育の改善・充実等について

（１）平成 25 年度からの継続事業である「私立大学等改革総合支援事業」（文部科学省及び日本私立学校振興・共済事業団が共同実施）において、歯科大学は、昨年に引き続き、新たな時代を生きる学生に対する教育機能の強化を促進している大学として、タイプ１「『Society5.0』の実現等に向けた特色ある教育の展開」に採択されました。

（２）歯科大学では、国家試験の現役合格を目指し、TKG（積上げ・繰り返し・学習）を低学年から実践するよう学生へ説明するとともに、助言教員が学習の進捗状況を確認する等の方法で学習習慣の確立を支援したほか、独自教材の「見開きテーマ問題集」を学生に配布して学習方法の確立を支援しました。

（３）歯科大学大学院では、口腔医学研究センターを活用して研究活動を推進させるとともに、海外の学術雑誌への論文発表増加に向けて研究指導を行ったほか、授業内容の確認を行い、大学院生がより多岐にわたる領域を学修できるよう新たに「臨床統計学」の授業を開講しました。

（４）看護大学では、令和 4 年度からの新カリキュラム開始に向け、完成年次までの教育内容を検討し、シラバスについて点検チェックを実施して、学生目線の内容に重点を置くとともに、評価の方法・基準を具体的に示すなど、新しい様式に変更しました。

（５）看護大学大学院は、4 月に大学院看護学研究科を開学し、内規、学生便覧等を見直したほか、AC 教員審査で看護特別研究の指導教員を増員し、教育・運営の充実を図りました。

（６）短期大学では、実践的教育の充実に向けて学外実習先である開業歯科医院数を 71 から 82 施設に増加させたほか、令和 5 年度からの男女共学化を決定しました。また、4 年制化に向けての検討も継続しています。専攻科では、24 名が大学改革支援・学位授与機構より学士の学位を取得しました。

（７）「第 115 回歯科医師国家試験」は、模擬試験結果を基に苦手分野の分析を行い、その内容を教員へフィードバックして、第 6 学年の指導に活用したほか、放課後および土日祝日に自習室を開放する等の対策を講じ、新卒 39 名が合格しました。看護大学は「第 111 回看護師国家試験」に 103 名が合格し、「第 108 回保健師国家試験」は 10 人全員が合格しました。短期大学は「第 31 回歯科衛生士国家試験」に新卒 55 名が合格しました。

３．研究の活性化について

（１）「福岡歯科大学･福岡看護大学･福岡医療短期大学 口腔医学研究センター」は、講師 3 名を招聘して第 3 回口腔医学研究センターシンポジウムを開催したほか、令和 3 年の同センターを活用した業績の取りまとめを行いました。

（２）看護大学では、「看護分野における口腔ケア・口腔ケア教育」に関する臨床看護研究を継続的に推進し、日本看護科学学会において、4 年連続で口腔ケアに関するテーマの交流集会が採択されました。

（３）専任教員の総論文数（著書、総説、原著論文、症例報告等）は、歯科大学は、前年度 162 編が 119 編（うち欧文 76 編）に、看護大学は、前年度 85 編が 52 編（うち欧文 11 編）、短期大学は、前年度 24 編が 39 編（うち欧文 21 編）になりました。

（４）研究倫理の確立に向け「公的研究費等にかかるコンプライアンス教育講習会」及び「責任著者と共著者の責任について」をビデオ講習会で開催し、学園 3 大学の教職員及び大学院生を含めて 674 名が受講しました。

４．学生の支援等について

（１）歯科大学では、特に指導が必要な学生に対し個別面談を適宜実施したほか、昨年度に引き続き低学年からの学習習慣の定着を支援するため、第 1 学年に対する助教によるサポーター制度の実施、また、保護者に対して大学の取り組みや修学状況等を説明する「学年説明会及び個別面談」等を行いました。

（２）看護大学では、保護者を交えた 3 者面談を含め、学生の状況に応じた個別的面談を繰り返し実施したほか、学習意欲向上を目指して卒業生や看護師による研修会を開催しました。また、新たに最新看護索引 Web を契約し、学生が自宅から文献検索が行えるよう環境を整えました。

（３）短期大学では、成績不振学生や基礎実習の課外学修希望学生に対する課外時間補習授業に TA も活用し、学力・技能の向上に努めたほか、e-learning 教材を蓄積し、基礎実習の予習・復習に活用しました。また、文部科学省の補助金事業に採択され、マネキン実習室の改修を行いました。

（４）歯科大学、看護大学、短期大学が文部科学省の実施する高等教育の修学支援制度（高等教育の無償化）の対象校として今年度も引き続き選定されました。

（５）令和 4 年度入学者数は、歯科大学口腔歯学部 67 名・同大学院 12 名、看護大学看護学部 104 名・同大学院 7 名、短期大学歯科衛生学科 70 名・同専攻科 21 名でした。

５．社会との連携・貢献について

（１）地域連携センターでは、新型コロナウイルス感染症の影響で、今年度も対面での活動をほとんど自粛・休止することとなりましたが、UR 星の原団地で健康調査を実施したほか、超高齢過疎地区（早良区板谷地区）における住民健康診断を訪問歯科センターとともに実施しました。また、医科歯科総合病院で「連携の会」を開催し、近隣の医療介護従事者を対象とした多職種によるリカレント教育の場を設けました。

（２）医科歯科総合病院では、各診療科が病院の方針に沿って目標の再設定を行い、外来患者、入院患者、手術等の増加方策に取り組み、診療稼働額が大きく向上しました。また、感染対策を強化するために発熱外来棟を設置したほか、健診センターでは協会けんぽの被保険者、被扶養者の健診を令和 4 年 4 月から開始することにしました。外来患者数は 1 日平均 704.11 人、入院患者数は 35.16 人でした。

（３）口腔医療センターは、福岡市歯科医師会へ加入し、訪問歯科センターと連携を行い「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所（か強診）」の施設基準の申請を行ったほか、物流管理システム（SPD）を導入し、効率的な医療材料の管理を実施しました。年間患者数は 26,570 人、1 日平均患者数は 111.2 人でした。

（４）介護老人保健施設は、医科歯科総合病院の言語聴覚士を非常勤で配置し、入所者、通所利用者の嚥下評価を実施したほか、厚生労働省が新たに運用を開始した「科学的介護情報システム（LIFE）」にデータを提出し、新規加算を取得しました。入所者数は 1 日平均 69.9 人、通所利用者数は 1 日平均 22.7 人でした。

（５）国際交流については、歯科大学は、昨年度に引き続いて姉妹校との交流は全て中止としました。看護大学は、リバプール大学（イギリス）との相互交流を目指し検討を継続しています。短期大学は、東釜山大学の廃校に伴い、今後の交流先について検討をしています。

６．組織運営及び財務強化･施設整備について

（１）令和 4 年 4 月から病院の管理運営の指導及び助言等を担当する病院顧問に阿南壽氏、学園の情報環境整備の指導及び助言等を担当する情報顧問に藤村直美氏の委嘱を決定しました。

（２）病院の将来的構想等を踏まえ、全身画像診断学分野の名称を「放射線診断学分野」に変更したほか、令和 4 年 4 月から呼吸器科を設けることとしました。

（３）新型コロナウイルス感染症対策として、ワクチン接種の打ち手不足が深刻化する中、歯科医師にも特例で容認されたため、福岡市の要請のもと本学園の医師、看護師に加え、歯科医師も集団接種会場で打ち手として支援を行いました。

（４）短期大学は、大学・短期大学基準協会の認証評価を受審し、「短大基準に適合している」との評価結果及び認定証を受領しました。

（５）外部資金導入として、文部科学省から改革総合支援事業選定、私立学校施設整備費などに係る補助金として約 75,400 万円を受け入れました。

（６）校舎・施設・設備の刷新と教育・研究機能の向上を目的に、既存キャンパスの再整備を推進することを決定し、基本計画等の策定を進めています。

令和 4年 5月31日開催
第575回 理 事 会可決
第176回 評議員会承認

学校法人福岡学園　令和３年度事業報告書

Ⅰ．法人の概要

法人の名称：学校法人福岡学園
住所：〒814-0193 福岡県福岡市早良区田村二丁目 15 番 1 号
電話：092－801－0411
URL：https://www.fdcnet.ac.jp/fdc/

１．法人の目的

学校法人福岡学園は、昭和 48 年に西日本唯一の私立歯科大学として「福岡歯科大学」を開設し、現在、口腔医学の学問体系の確立・育成と全身の疾患が理解できる医療人の育成に向けて、特色ある教育研究を行っている。平成 25 年 4 月からは、口腔医学に関する活動をアピールするとともに、歯学教育や歯科医療の実態に即したものとするため、学部学科の名称を「口腔歯学部・口腔歯学科」に変更した。また、地域の医療センターとしての「医科歯科総合病院」のほか、臨床実習の拡充や地域歯科医療の向上等を目的としたサテライト施設「口腔医療センター」を博多駅前に有する。この他、全国初の「口腔保健学士」認定専攻科を持つ「福岡医療短期大学」、全国に先駆けて設置した高齢者福祉のための「介護老人保健施設 サンシャインシティ」を併設している。さらに、平成 29 年に「福岡看護大学」を開学させたほか、女性の就業環境整備のため、同年、ぺんぎん保育園を開設。大学院教育について、昭和 60 年に歯科大学大学院（博士課程）を開学させたほか、令和 3 年 4 月に看護大学大学院（修士課程）を新たに設置し、更なる教育研究のフィールドを広げている。このように、本学園は、一貫して教養と良識を備えた有能な歯科医師、看護師、保健師、歯科衛生士、介護福祉士の養成及び教育・研究者の育成に努め、医療・保健・福祉の総合学園として、教育・研究の質の向上及び地域医療・福祉への貢献を目指している。

【建学の精神】

福岡歯科大学：教育基本法及び学校教育法に基づき、歯学に関する専門の学術を教授研究し、教養と良識を備えた有能な歯科医師を育成することを目的とし、社会福祉に貢献すると共に歯科医学の進展に寄与することを使命とする。

福岡看護大学：教育基本法及び学校教育法に基づき、看護学に関する専門の学術を教授研究し、教養と良識を備えた有能な看護専門職を育成することを目的とし、社会福祉に貢献するとともに、看護学の進展に寄与することを使命とする。

福岡医療短期大学：歯科衛生学に関する専門の学術を教授研究し、教養と良識を備えた有能な歯科衛生士を養成し、保健福祉に貢献すると共に、歯科衛生学の進展に寄与する。

２．沿革

昭和47年 7月	学校法人福岡歯科学園寄附行為認可、福岡歯科大学設置認可
昭和48年 2月	福岡歯科大学附属病院開設
昭和48年 4月	福岡歯科大学開学
昭和55年11月	福岡歯科大学附属歯科衛生専門学校設置認可
昭和56年 4月	福岡歯科大学附属歯科衛生専門学校開校
昭和60年 3月	福岡歯科大学大学院設置認可

昭和60年 4月	福岡歯科大学大学院開学
平成 8年10月	福岡歯科大学附属歯科衛生専門学校の福岡医療福祉専門学校への校名変更及び同校の社会福祉専門課程設置認可
平成 8年12月	福岡医療短期大学設置認可
平成 9年 3月	福岡医療福祉専門学校歯科衛生専門課程募集停止
平成 9年 4月	福岡医療短期大学開学、福岡医療福祉専門学校開校
平成11年 2月	福岡医療福祉専門学校歯科衛生専門課程廃止認可
平成11年 4月	福岡医療短期大学専攻科歯科衛生学専攻開設
平成11年12月	福岡医療短期大学保健福祉学科設置認可
平成12年 1月	福岡医療福祉専門学校社会福祉専門課程募集停止
平成12年 4月	福岡医療短期大学保健福祉学科開設
平成14年 1月	福岡医療福祉専門学校廃止認可
平成14年 8月	介護老人保健施設（サンシャイン シティ）開設
平成15年 4月	福岡医療短期大学歯科衛生学科3年制へ移行
平成16年 7月	人事考課制度導入
平成17年 1月	病院名を福岡歯科大学医科歯科総合病院に改称
平成17年 4月	教員の任期制導入
平成20年 4月	福岡医療短期大学歯科衛生学科の専攻科が大学評価・学位授与機構の認可を得て、学士（口腔保健学）の専攻科として認定
平成23年 6月	法人名を福岡学園に変更認可
平成23年11月	福岡歯科大学口腔医療センター開設認可
平成23年12月	福岡歯科大学口腔医療センターを開設
平成25年 4月	福岡歯科大学の学部・学科名を口腔歯学部口腔歯学科に変更
平成28年 8月	福岡看護大学設置認可
平成29年 4月	福岡看護大学開学
平成29年 8月	ぺんぎん保育園開園
平成31年 3月	福岡医療短期大学保健福祉学科令和2年度から学生募集停止決定
令和元年 9月	福岡歯科大学収容定員変更認可（令和2年度から入学定員96名）
令和 2年 9月	福岡歯科大学医科歯科総合病院新病院開院
令和 2年10月	福岡看護大学大学院設置認可
令和 3年 3月	学校法人福岡学園･福岡歯科大学創立50周年記念講堂着工
令和 3年 3月	福岡医療短期大学保健福祉学科廃止
令和 3年 4月	福岡看護大学大学院開学

３．設置する学校・学部・学科等、その入学定員、学生数等の状況

（表１）　　（令和３年５月１日現在）

学　校　名	学部学科等名	開設年度	修業年限(年)	入学定員(人)	収容定員(人)	在学者数(人)
福岡歯科大学 (学長　髙橋　裕)	口腔歯学部 口腔歯学科	昭和４８年	6	96	672	555
	大学院歯学研究科	昭和６０年	4	18	72	34
福岡看護大学 (学長　窪田　惠子)	看護学部 看護学科	平成２９年	4	100	400	416
	大学院看護学研究科	令和３年	2	5	10	5
福岡医療短期大学 (学長　田口　智章)	歯科衛生学科	平成　９年	3	80	240	163
	専攻科 口腔保健衛生学専攻	平成１１年	1	20	20	24

施　設　名	区　分	開設年度	定員(人)	1日当り利用平均(人)	年間利用延数(人)
介護老人保健施設 サンシャインシティ (施設長　中島興志行)	入　所	平成 14 年	85	69.9	25,530
	通　所	平成 14 年	40	22.7	6,539

4．出願者、入学者及び収容定員充足率等の状況

（表２）

学　校　名	学部学科等名	令和３年度入学者				令和４年度入学者			
		出願者	受験者	合格者	入学者	出願者	受験者	合格者	入学者
福岡歯科大学	口腔歯学部 口腔歯学科	153	141	125	71	140	133	124	67
	大学院歯学研究科	10	10	10	9	12	12	12	12
福岡看護大学	看護学部看護学科	360	348	208	101	451	443	262	104
	大学院看護学研究科	5	5	5	5	7	7	7	7
福岡医療短期大学	歯科衛生学科	66	64	64	60	74	72	72	70
	専攻科 口腔保健衛生学専攻	29	29	24	24	25	25	21	21

（表３）　（毎年度５月１日現在）

学　校　名	学部学科等名	年度別収容定員充足率				
		平成 29 年度	平成30 年度	令和元年度	令和2 年度	令和3 年度
福岡歯科大学	口腔歯学部 口腔歯学科	0.9	0.9	0.8	0.8	0.8
	大学院歯学研究科	0.7	0.6	0.5	0.6	0.5
福岡看護大学	看護学部 看護学科	1.2	1.2	1.1	1.1	1.0
	大学院看護学研究科	―	―	―	―	1.0
福岡医療短期大学	歯科衛生学科	0.9	0.8	0.8	0.8	0.7
	専攻科 口腔保健衛生学専攻	1.1	1.6	1.2	1.2	1.2

5．教職員数

（表４）　教　員　数　（令和３年５月１日現在）

	教授等	准教授	講師	助教	助手	その他	小計	客員教授	客員准教授	臨床教授	臨床准教授	非常勤講師	合計
歯科大学	44	16	41	59	―	―	160	12	1	24	5	53	255
看護大学	12	5	8	5	11	―	41	1	―	―	―	12	54
短期大学	6	1	6	2	1	1	17	―	―	―	―	20	37
老　健	1	―	―	―	―	―	1	―	―	―	―	―	1
合　計	63	22	55	66	12	1	219	13	1	24	5	85	347

（表５）　　職　員　数　　（令和３年５月１日現在）

	事務職員	技術職員	技能職員	補助職員等	医療職員等	介護職員等	医員	合計
歯科大学	47	4	6	26	－	－	－	83
看護大学	11	－	－	1	－	－	－	12
短期大学	5	－	－	－	－	－	－	5
病　院	17	－	－	2	113	－	57	189
口腔医療センター	6	－	－	－	12	－	－	18
老　健	4	－	－	－	20	42	－	66
合　計	90	4	6	29	145	42	57	373

※非常勤職員を含む。

６．役員・評議員・役職教職員

（令和３年５月１日現在）

（表６）　理事（定数 10～17 人）・監事（定数 2～4 人）・顧問

役職名	氏名	就任年月日	常勤･非常勤の別
理 事 長	水　田　祥　代	平成 22 年 6 月 3 日	常勤
常務理事	田　口　智　章	令和 2 年 4 月 1 日	常勤
理　　事	髙　橋　　裕	平成 30 年 2 月 1 日	常勤
理　　事	窪　田　惠　子	平成 29 年 4 月 1 日	常勤
理　　事	瓦　林　達比古	平成 27 年 10 月 1 日	非常勤
理　　事	宮　口　　嚴	平成 17 年 8 月 3 日	非常勤
理　　事	樗　木　晶　子	令和 2 年 8 月 3 日	常勤
理　　事	井　手　孝　行	平成 27 年 5 月 1 日	常勤
理　　事	阿　南　　壽	平成 31 年 4 月 1 日	常勤
理　　事	古谷野　　潔	平成 26 年 8 月 3 日	非常勤
理　　事	大　山　　茂	令和元年 10 月 1 日	非常勤
理　　事	海老井　悦　子	平成 27 年 12 月 1 日	非常勤
監　　事	藤　田　和　子	平成 29 年 4 月 1 日	非常勤
監　　事	西　方　和　久	平成 25 年 1 月 1 日	非常勤
顧　　問	木　下　　明	平成 31 年 4 月 1 日	非常勤
学事顧問	松　本　裕　子	平成 29 年 4 月 1 日	常勤

（表７）　評議員（定数 24～35 人）

役職名	氏名	就任年月日
評 議 員	水　田　祥　代	平成 22 年 6 月 3 日
評 議 員	田　口　智　章	平成 29 年 8 月 3 日
評 議 員	髙　橋　　裕	平成 17 年 8 月 3 日
評 議 員	窪　田　惠　子	平成 29 年 4 月 1 日
評 議 員	阿　南　　壽	平成 31 年 4 月 1 日
評 議 員	井　手　孝　行	平成 27 年 5 月 1 日
評 議 員	石　橋　慶　憲	平成 21 年 6 月 26 日
評 議 員	松　添　裕　晃	令和元年 6 月 1 日
評 議 員	横大路　智　視	令和 3 年 1 月 1 日
評 議 員	樗　木　晶　子	平成 29 年 8 月 3 日
評 議 員	都　築　　尊	令和 3 年 4 月 1 日
評 議 員	川　野　庸　一	平成 30 年 4 月 1 日

評 議 員	樋 口 勝 規	平成 28 年 7 月 19 日
評 議 員	中 畑 高 子	令和 2 年 4 月 1 日
評 議 員	平 田 雅 人	平成 30 年 2 月 1 日
評 議 員	朔 啓二郎	平成 17 年 8 月 3 日
評 議 員	古谷野 潔	平成 26 年 8 月 3 日
評 議 員	瓦 林 達比古	平成 27 年 10 月 1 日
評 議 員	海老井 悦 子	平成 27 年 12 月 1 日
評 議 員	大 山 茂	令和元年 10 月 1 日
評 議 員	前 原 喜 彦	平成 17 年 8 月 3 日
評 議 員	松 田 峻一良	平成 22 年 6 月 3 日
評 議 員	平 田 泰 彦	令和 2 年 8 月 3 日
評 議 員	神 田 晋 爾	平成 29 年 8 月 3 日
評 議 員	宮 口 嚴	平成 11 年 8 月 3 日
評 議 員	吉 永 修	令和 2 年 4 月 1 日
評 議 員	中 四 良	令和 2 年 8 月 3 日

※本法人は、役員（理事、監事）及び評議員について、役員の健全な経営判断及び本法人の更なる発展をサポートするため、令和 3 年度から継続して日本私立大学協会の役員賠償責任保険（対象:理事、監事、評議員　保険期間:1 年間　総支払限度額:1 億円）に加入し、役員の損害賠償リスクを補償しています。

（表８）　役職教職員等

【福岡歯科大学】

役職名	氏名
学 長	髙 橋 裕
医科歯科総合病院長	阿 南 壽
学 生 部 長	稲 井 哲一朗
情 報 図 書 館 長	坂 上 竜 資
口腔・歯学部門長	城 戸 寛 史
全身管理・医歯学部門長	池 邉 哲 郎
社会医歯学部門長	埴 岡 隆
基礎医歯学部門長	日 髙 真 純
医科歯科総合病院副病院長	都 築 尊
医科歯科総合病院副病院長	川 野 庸 一
医科歯科総合病院副病院長	樋 口 勝 規
医科歯科総合病院副病院長	中 畑 高 子

【福岡看護大学】

役職名	氏名
学 長	窪 田 惠 子
副学長・研究科長	樗 木 晶 子
学 部 長	青 木 久 恵
学 生 部 長	中 島 富有子
情 報 図 書 館 長	岡 田 賢 司
基礎･基礎看護部門長	青 木 久 恵
健康支援看護部門長	内 田 荘 平
地域･在宅看護部門長	中 島 富有子
教育支援・教学 IR 室長	大久保 つや子
大学院副研究科長	飯 野 英 親

【福岡医療短期大学】

役職名	氏名
学 長	田 口 智 章
学 科 長	堀 部 晴 美

【介護老人保健施設】

役職名	氏名
施 設 長	中 島 與志行

【事務局】

役職名	氏名
事 務 局 長	井 手 孝 行

Ⅱ．事業の概要

１．教育の改善・充実

１）口腔医学の確立・育成

歯科大学では、“口腔”を身体の一つの臓器と位置づけ、現在の歯学教育の高度専門化とともに一般医学教育を充実させた「口腔医学」を確立・育成することが、超高齢社会を支える歯科医学・歯科医療にとって非常に重要であるとの考えから、「歯学から口腔医学へ」をモットーに、口腔医学教育・口腔医療の確立・育成のフロントランナーとして、その実践に努めてきた。

平成 20 年度文部科学省選定の戦略的大学連携支援事業『口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考』(助成期間：平成 20 年 11 月 20 日から 22 年度まで）については、助成期間を含めた 10 年間の事業は終了したが、連携大学間で共同実施していた「医歯学連携演習」を本学では引き続き開講した。

また、口腔医学を推進させるために平成 27 年度に創設された「田中健藏基金」による第 6 回目の事業として、福岡看護大学の看護演習で使用する未熟児モデル等購入費及び福岡医療短期大学の口腔ケア実習等で使用するマネキン購入費として 480 千円の支援を実施した。

２）「私立大学等改革総合支援事業」に採択

平成 25 年度から文部科学省及び日本私立学校振興・共済事業団が共同で実施する継続事業で、教育の質的転換や、産業界・他大学との連携、地域におけるプラットフォームの形成による資源の集中化・共有など、特色化・機能強化に向けた改革に全学的・組織的に取り組む大学等を重点的に支援する事業である。

（１）タイプ１「『Society5.0』の実現等に向けた特色ある教育の展開」に採択

「Society5.0」時代に求められる力を養う、文理横断的な教育プログラムの実施、リベラルアーツ教育の推進等、新たな時代を生きる学生に対する教育機能の強化を促進している大学として、タイプ１の「『Society5.0』の実現等に向けた特色ある教育の展開」に歯科大学が引き続き採択された。

３）「大学教育再生加速プログラム（AP)」の継続実施

（１）福岡歯科大学

事業の取り組みの中で収集・蓄積したデータを分析した情報に基づき、教育内容・修学支援内容の改善を実施している。また、平成 30 年度に策定した学修成果の評価の方針(アセスメント・ポリシー)に基づいた教育活動の検証を実施している。さらに、可視化した個々の学生の学修成果（ポートフォリオ）については、学生と助言教員が Web 上で共有できる環境を整備している。

（２）福岡医療短期大学

事業の取り組みの中で行ってきた学修成果の可視化およびアクティブラーニング、FD・SD 活動の推進については、事業終了後も改善を重ねつつ継続し、教育改善に繋げている。

４）歯科大学口腔歯学部の教育

（１）口腔医学教育の実践

ディプロマ・ポリシーとして定めた能力に関して、各授業ユニットで何の能力を成長させることができるのか、学生に対しシラバスで提示しながら口腔医学教育を実践している。また、シラバスで定めた内容を数値化し、各種指標等と組み合わせて検証を行う等、カリキュラム改善に継続して取り組んでいる。

① 口腔医学カリキュラム確立の推進

本学が掲げているディプロマ・ポリシーの中で修得する機会が低学年に偏っていた「医療人としてのプロフェッショナリズム」および「医療人としての国際力」に関して、新たに習得する機会を設定する目的で、第 4 学年に「課題解決演習Ⅲ」「課題解決演習Ⅳ」「Global Medical English Ⅰ」を開講した。

② コロナ禍における授業について

新型コロナウイルス感染症の拡大によって令和 3 年 5 月～6 月及び 8 月～9 月の緊急事態宣言期間中は講義・実習ともに Moodle を活用したオンデマンド形式の遠隔授業を行った。授業毎に学生からの意見や質問を受けることができるフィードバック欄を設け、オンデマンド上でも学生と教員の双方向性が保てる仕組みを構築することで教育の質を担保することができた。緊急事態宣言解除後は学生全員へ検温を行った上で教室への入室を許可する等の徹底した感染対策を行い、対面授業・実習を開始した。また、学生及び教職員の安全を最優先に発熱者に対しては本学医科歯科総合病院での PCR 検査の実施体制を整える等の対策を行った。

③ 診療参加型臨床実習の充実

ｉ）コロナ禍での臨床実習

新型コロナウイルス感染症の影響により緊急事態宣言期間中は患者や学生の安全を第一に考え臨床実習においても Moodle を活用したオンデマンド形式の遠隔授業を行った。緊急事態宣言解除後の臨床実習においても感染拡大

防止を最優先とし、診療室内が密にならないよう、半数は診療室内での実習、半数は実習室での相互実習等を行った。また、本学の特徴である充実した最新設備を活用した臨床実習「患者型ロボットを用いた救急時対応医科歯科統合シミュレーション実習」について、今年度は、緊急事態宣言解除後に実施することができた。令和 2 年度からは小児患者の救急時にも対処できるよう小児患者型ロボットを導入し、実習内容の充実を図っている。

ⅱ）臨床能力試験の本格実施

本格実施となって 2 年目の歯学系診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験については、共用試験評価実施機構から 12 月 7 日、8 日に監督者が派遣され実施した。第 5 学年 82 名が受験し、全員合格した。

また、臨床能力試験認定評価者養成ワークショップを大学において実施し、評価に当たる教員の評価能力向上及び試験の評価の質の保証に努めた。令和４年度は九州地区でのブロック開催となるため各大学との連携を図っている。

（２）創造力を持った人材の育成

① 自学自習システム等の充実

コロナ禍における遠隔授業の形態としては、昨年に引き続き Moodle を活用したオンデマンド形式を採用した。これは LIVE 配信授業よりも予習復習や繰り返し学習がやり易いといった学生の声を反映したものであり、遠隔授業のみに活用するのではなく、通常授業の自学自習教材としても有効に活用できるよう内容及びシステムの充実を図った。

② 入学前教育の充実

総合型選抜 1 期及び学校推薦型選抜合格者に対する入学前教育を、新型コロナウイルスの感染状況に応じて来学と遠隔授業にて実施した。今年度は昨年に引き続き現代文を重点科目として、学生の文章読解･作成能力養成、大学生としてのコミュニケーション能力向上を目的として実施した。

③ 低学年の態度教育

多様な学生の入学に対応するために第 1 学年の学生 2～3 名ごとに、1 名の助教をサポーターとして配置し、まずは学習習慣の定着を促進させることを目的に修学状況をチェックする体制を構築した。また令和 3 年度より第 1 学年の後期には、専門科目の学び方や改善方法の習得を目的としたサポート講義を実施し、修学支援を図った。また、2 学年と 3 学年については助言教員が学習教材の進捗状況を確認する面談を実施し学習習慣の定着を促した。

（３）教育の充実・改善への新たな取り組み

① 学習習慣・学習方法確立の支援

歯科医師国家試験の現役合格を目指し、TKG（積上げ・繰り返し・学習）を低学年から実践するよう学生を支援している。具体的には、データに基づく TKG の重要性に関する学生への説明や、助言教員が学習の進捗状況を確認する等の方法で学習習慣の確立を支援している。また、学習の勘所を学ぶことができる独自教材の「見開きテーマ問題集」を学生に配布し、学習方法の確立を支援している。

② 総合学力試験制度の充実

過年度を含めて履修した科目すべてを出題範囲として客観試験を行う総合学力試験制度を導入している。国家試験や CBT を合格するための本試験の基準を学生に示し、低学年から国家試験を見据えた学習を学生に促している。試験後には、習得が不十分な項目が分かる個人成績表を個々の学生にフィードバックしている。

③ 共用試験への取り組み

第 4 学年は、臨床実習に向けて 4 年間で学んだ知識を統合するための大事な時期で十分な基礎学力をつけることが必要であるとの観点から、共用試験受験を踏まえた実践的な授業科目である「基礎臨床統合演習」において昨年から導入した予習試験制度を定着させ、学生の修学状況を評価することで早期の取り組みを促進した。

共用試験には、第 4 学年 105 名が受験し、CBT に関しては 82 名が、OSCE については 105 名が合格した。

５）歯科大学大学院の教育

（１）教育の可視化・実質化等

研究科運営委員会にて授業内容の確認を行い、学生がより多岐の領域を学修できるよう新たに「臨床統計学」の授業を開講した。

（２）高度な研究能力と豊かな国際感覚の涵養

令和 3 年度は大学院 4 学年 5 名が学位を取得した。また、口腔医学研究センターでは大学院生 22 名が研究活動を行い、海外の学術雑誌への論文発表増加に向けて研究指導を行った。

（３）修学支援体制の充実化

奨学制度においては一般奨学生 7 名、リサーチ･アシスタント 12 名、ティーチング･アシスタント 11 名を選考した。

また、第一種特待生を 1 名、第二種特待生を 3 名選考した。

（４）口腔医学を基盤とした知的人材養成

口腔医学に沿って総合医学基本テーマを充実させるため、引き続き医科科目の講義・実習を必修科目として開講し、医科疾患の診断・治療の臨床演習を実施した。

（５）定員確保への取り組み

入学定員確保のため、本学研修医向けに大学

院説明会として、「大学院のすすめ」を計 3 回実施したほか、本学研修歯科医に「大学院入学ガイド」を配布し、本学大学院への進学を促進した結果、令和 3 年度は 9 名（定員 18 名）が入学した。

６）看護大学看護学部の教育

（１）高度な看護実践能力の育成

開学 5 年目を迎え、4 年間の教育評価として、第 1 期生の臨地実習におけるポートフォリオの分析結果をもとに、ディプロマ・ポリシーの達成を質的に確認した。また、ディプロマ・ポリシー達成度の可視化の意義を考える FD 研修を教育支援・教学 IR 室が担当実施し、可視化にあたっては、ディプロマ・ポリシーを意識した授業運営が必要であることについてグループワークなどを通じて教員相互に確認し合った。

コロナ禍において令和 2 年度の 1 年次、3 年次臨地実習の学びを補完する事業として、今年度事例課題の技術チェックを実施し、全体及び個別にフィードバックを行った。

口腔ケアに関する教育では、本学が発刊した「看護で教える最新の口腔ケア」をテキストとし、各専門分野で連携しながら教育を行った。

教育計画では、令和 4 年 4 月からの新カリキュラム開始に向けて、完成年次までの教育内容を検討し、文部科学省に申請した。シラバスは、学生目線の内容に重点を置くと共に、評価の方法・基準を具体的に示すなど、新しい様式に変更し、FD・自己点検評価推進委員会によるシラバス点検チェックを実施した。

教員の教育力向上に向けての取り組みとして、FD 研修では、遠隔授業導入による課題と効果的な活用方法の検討を行い、コロナ禍における授業水準の向上に関する情報交換を行った。

（２）実習体制の整備

大学と実習施設の連携に向け、「実習協議会」はオンラインで開催し、「実習委員会」、「実習指導者会議」を定期的に開催した。実習委員会と学生支援委員会が連携し、新型コロナウイルス感染予防のガイドラインを含め大学の感染予防対策を実習施設に提示し、臨地実習の調整を行った。実習施設によって受入れ条件が異なり、一部が学内実習となったが、模擬事例によるシミュレーション、ビデオ教材などの工夫で実習目標が達成できるよう整備した。実習科目によっては、実習施設等の協力を得て、オンラインを活用し臨地実習指導者等を招聘した実習ができた。臨地実習終了後は、実習指導者会議を実施し、その教育成果を実習施設にフィードバックした。実習における課題解決に向けた協議を行い、臨地実習を継続ができる取り組みを行った。

７）看護大学大学院の教育

令和 3 年 4 月に大学院看護学研究科は開学し、1 期生は定員の 5 名が入学した。また、令和 4 年度の入学試験も終了し、令和 4 年 4 月に 7 名が入学予定である。

大学院研究科委員会を中心に、開学以降、内規、学生便覧等を見直した。また、AC 教員審査で看護特別研究の指導教員数を増やし、令和 5 年 3 月に大学院生が修了できるように教育、運営している。

８）医療短大の教育

（１）高度かつ実践的教育

実践的教育の充実に向けて学外実習先である開業歯科医院数を 71 から 82 施設に増加し、実施した。また、令和 3 年度もコロナ禍での臨床実習実施となったが、医科歯科総合病院の協力のもと、感染防止に配慮しつつ無事に終了した。

（２）専門分野のエキスパート養成

令和 3 年度より 2 年次科目として実施している介護職員初任者研修を介護福祉士実務者研修に切り換え実施したが、選択者が少なく、資格取得には繋がらなかった。その結果を踏まえ、令和 4 年度入学者から、口腔のみならず全身介護の知識・技能を備えた歯科衛生士を養成すべく、再度、介護職員初任者研修修了資格を取得できるカリキュラムに改正し、全員に資格取得させるよう必修科目に変更した。

専攻科においては、特例適用対象専攻科生 20 名が、専攻研究成果の要旨、成績評価の結果を大学改革支援・学位授与機構へ報告し、学士を取得した。特例適用対象外の認定専攻科生 4 名については、大学改革支援・学位授与機構に論文を送付し、同機構の筆記試験を受けて合格し、学士を取得した。

（３）将来像の検討

歯科衛生学科では、教員の質向上を目指し、教員の学位取得を奨励し、1 名が博士後期課程に在学している。また、令和 5 年度からの男女共学化を決定したほか、四年制大学化に向けての検討を継続している。

９）教育の質の向上

（１）福岡歯科大学

学生支援の充実に関する FD(1 回)、教員の資質向上に関する FD(7 回)、大学院及び研究の活性化に関する FD(4 回)を開催した。その他、FD 関連事業として、CBT 問題作成に関する FD ワークショップを開催する等、教員の教育力向上

に努めた。

（２）福岡看護大学

保健師助産師看護師カリキュラム改正の導入を次年度に控え、カリキュラムの在り方とディプロマ・ポリシー達成評価に関する FD 研修を計画的に実施し（2 回）、教育効果向上を目指すシラバスを作成した。「コロナ禍における遠隔講義導入による課題と効果的な講義方法」、「合理的配慮が必要な学生の指導方法」、「国家試験合格に向けたデータ分析」、「大学院教育開始に伴うより実践的な倫理教育」、「ハラスメント教育」など多岐に渡り FD 研修を実施し、教員の教育能力の向上を図った。また、教職員が一丸となって教育の向上に努めることを目指し、「大学内部の質保証に関する FD 研修・SD 研修」を実施した。「口腔医学を取り入れた看護教育研究に関する研修」を含め、年間 計 17 回の FD･SD を実施し（学園主催 FD･SD 含）、各研修における成果を教育に活かしている。

（３）福岡医療短期大学

大学全体の教育改革がさらに加速することを目的に、教育・厚生補導・研究・管理運営という 4 つの枠組みによる体系的な FD・SD を学内で 3 件実施したほか、学園主催の各種 FD･SD10 件に参加対象教職員が参加し、教育能力・教育の質等の向上に努めた。

（４）最優秀教育改善賞

福岡歯科大学及び福岡医療短期大学では、教員の意欲向上並びに教育の質向上及び改善を図ることを目的に制定した「最優秀教育改善賞要項」に基づき、令和 3 年度についても教育活動において顕著な成果を挙げ、他の教員の模範となる教員を選出した。

１０）国家試験

（１）福岡歯科大学

歯科医師国家試験合格に向けて、昨年同様、卒業試験を9月から実施し、早期での学修の定着を図った。7月後半からは、苦手分野を補うことを主な目的とした予備校による国家試験対策講義を実施し、早期から国家試験対策を行った。

また、9月以降は、国家試験模擬試験の結果を基に全国の正答率と乖離がある問題から苦手分野の分析を行い、その内容を全教科での打合せの会議において教員へフィードバックし、第6学年の指導に活用した。

その他、第6学年の自学自習の場を提供するために平日は正課の授業終了後から22時まで、土日祝日は9時から18時まで自習室を開放し、国家試験の対策を支援した。

第115回国家試験には、60名が受験し、39名が合格した。

（２）福岡看護大学

第1学年においてはグループ学習及び学習ノート作成を通じて生理学･解剖学の知識定着を図った。第2学年はサドンデス方式で模擬試験を実施し必修問題の学修強化を図った。第3学年では、国試問題集を演習・実習などで活用するなど看護実践との関連で知識強化を図った。第4学年では、昨年度国試不合格者の成績分析結果をFD/SD研修を通じて教職員全体で共有すると共に成績低迷者への対策を強化した。また、今年度から新たに企画した模擬試験成績推移表を毎試験後に提供して指導に活用した。

第111回看護師国家試験は、104名が受験し、103名が合格、合格率99.0%(全国平均96.5%)であった。第108回保健師国家試験は、新卒10名が受験し、10名全員が合格し、合格率100%(全国平均97.4%)であった。

（３）福岡医療短期大学

卒業試験･国家試験受験者全員の合格を目指して、対策授業である口腔保健テーマ別講義や補習を実施した結果、57 名全員が卒業試験に合格し、卒業決定後も成績不振者に対しては、国家試験までの期間、更なる学力向上へ向けて個別指導等の学修支援を行った結果、第 31 回歯科衛生士国家試験は、新卒受験者 57 名中 55 名、既卒受験者 4 名中 2 名が合格し、新卒合格率 96.5%、全体合格率 93.4%(全国合格率 95.6%)であった。

２．研究の活性化

１）研究の質の向上

（１）研究マネジメント体制の整備等

福岡歯科大学･福岡看護大学･福岡医療短期大学における研究活性化の一環として、引き続き専任教員及び医員等を対象に、研究（研修）テーマの取り組み･進捗状況をまとめ、所属長を経て理事長に提出させ、理事長はこの報告書をもとに学長とともに教授面談を行い、計画的な研究の実施に向けて指導を行った。

また、教育研究経費等として、福岡歯科大学には学長重点配分経費 10,000 千円、病院長重点配分経費 5,000 千円、学術振興基金事業経費 18,500 千円を、福岡看護大学には学長重点配分経費 2,000 千円、共同研究費 3,000 千円を、福岡医療短期大学には学長重点配分経費 1,000 千円、共同研究費 500 千円を配分した。

令和 3 年度の研究業績は、福岡歯科大学専任

教員の総論文数（著書、総説、原著論文、症例報告等）は 119 編（前年度 162 編）、うち欧文は 76 編であった。

福岡看護大学の専任教員の総論文数（著書、総説、原著論文、症例報告等）は 52 編（前年度 85 編）、うち欧文は 11 編であった。

福岡医療短期大学専任教員の総論文数（著書、総説、原著論文、症例報告）は 39 編（前年度 24 編）、うち欧文は 21 編であった。**（別表 1）**

２）研究ブランドの確立

（１）福岡歯科大学

12 月 10 日に 3 名の講師を招聘し、第 3 回口腔医学研究センターシンポジウムを開催し、学内外から 41 名が参加者した。

（２）福岡看護大学

大学の研究ブランドの確立と定着を目指して、看護学・口腔医学共同研究ワーキンググループを中心組織として「看護分野における口腔ケア・口腔ケア教育」に関する臨床看護研究を継続的に推進した。一連の成果は、日本看護科学学会において、口腔ケアに関するテーマの交流集会として 4 年連続で採択されたほか、昨年度発足した「大学間連携看護口腔研究グループ」に他大学の教員が参加するなど、ネットワークを広げている。

科学研究費助成事業（日本学術振興会）では、令和 3 年度の助成金保有率は、74.2%を達成し、口腔関連の研究テーマでブランド力の獲得を推進している。

（３）福岡医療短期大学

私立大学研究ブランディング事業の継続事業として地域の高齢者を対象とした「口腔・全身機能の計測」を予定していたが、コロナ禍により中止とし、栄養状態の紙面調査のみを実施した。また、事業時の研究を基に研究を継続し、論文作成を進めるとともに、学長主導のもと、福岡医療短期大学業績集を作成した。

３）口腔医学研究センター

本センターでは、先進的かつ独自性の高い研究活動を一層推進・拡充し、ブランディング強化を図るため、「常態系」、「病態系」、「再生系」、「臨床歯学系」、「医学系」の 5 つの口腔医学プラットホーム（PF）を構築した。学園 3 大学から 33 名の研究者を選抜し、それぞれを適切な PF に配した。各 PF では口腔の健康は全身の健康を守るという「口腔医学」のコンセプトに基づいた共通目標のもと、独自の先駆的研究に取り組むとともに相互の連携研究にも取り組んでいる。

12 月 10 日に 3 名の講師を招聘し、第 3 回口腔医学研究センターシンポジウムを開催した。また令和 3 年の同センターを活用した業績の取りまとめを行った。

４）アニマルセンター

令和 3 年度の動物実験計画承認書の申請件数は 18 件で、動物種の導入はマウス（SPF 含む）が 3,397 匹、ラットが 65 匹、カエルが 49 匹を導入し、昨年度と比較して主にヌードラットやカエル等の飼育頭数が増加し、研究活動の活性化が見られた。また、アニマルセンター使用者講習会は、更新者（4 年毎）15 名、新規登録者 18 名が受講した。

５）科学研究費助成事業の獲得

科学研究費助成事業の獲得状況は、**別表 2**（歯科大学）、**別表 3**（看護大学）、**別表 4**（短期大学）のとおり。歯科大学では令和 2 年度と比して、採択件数 81 件から 77 件と 4 件減となり、採択金額は 21,150 千円減少した。看護大学では、採択件数 20 件から 24 件と 4 件増となり、採択金額は 5,500 千円増加した。短期大学では、採択件数は 1 件から 2 件と 1 件増となり、採択金額は 4,900 千円増となった。

科研費獲得に向け、恒常的に研究助成金を獲得している教員による FD 及び研究計画書のブラッシュアップを実施するなど、全学的に外部資金獲得マインドの向上を図っている。

６）研究倫理の確立

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、集合形式の講演会は開催せず、9 月～10 月に「公的研究費等にかかるコンプライアンス教育講習会」及び「責任著者と共著者の責任について」のビデオ講演会を実施し、歯科大学、看護大学、短期大学の教職員及び大学院生を含み延べ 674 名が受講した。また、6 月に新規の研究者を対象に「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づき、「人を対象とする研究の倫理および研究の実施に関する講習会」を開催し、合計 81 名が参加した。なお、その後受講を希望した研究者及び大学院生等へビデオ講習会を開催し、令和 3 年度は計 110 名が受講した。

３．学生の支援等

１）修学等の支援

（１）修学支援システム及び主体的学習支援体制の整備・充実

① 助言教員制度･チューター制度の活用

歯科大学では、助言教員と学生とのコミュニケーションの取り方及び学修指導方法等について協議し、特に指導が必要な学生に対しては個別面談を適宜実施する等、学生に対する適切な指導を行った。昨年に引き続き保護者に対して助言教員等が大学の取り組みや修学状況等を説明する「学年説明会及び個別面談」を、感染対策を徹底した上で8月に2回実施した。

また、第1学年の学生に対する学習支援制度の一環として、助教によるサポーター制度を今年度も実施し、低学年からの学習習慣の定着を支援した。

看護大学では、チューター教員による定期面談を4月、7月、3月に実施した。新型コロナウイルス感染症の影響があり精神的不調を訴える学生が多く、保護者を交えた三者面談を含め学生面談を繰り返すなど、学生の状況に応じた個別的支援を行った。また、学習意欲向上を目指して、卒業生や看護師による研修会を開催した。

短期大学では、対人関係や成績不振に悩む学生に対し、学年担任・助言教員制度を活用し、きめ細やかなケアを行ったほか、本人や保護者を含めた面談を適宜実施した。また、例年通り学修ポートフォリオを活用し、学修指導等を行った。

② スチューデント・アシスタント(SA)制度の活用

歯科大学では、学生の勉学意欲の向上と苦手意識、疑問などの解消を目指すことを目的として例年SA制度を活用している。今年度は4学年及び6学年を対象として実施を計画していたが、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により6学年の実施のみにとどまった。

③ ティーチング・アシスタント(TA)制度の活用

歯科大学大学院では、TAの資質向上を目的とした研修を昨年度同様6月に実施し、学部学生に対する教育改善・授業改善への貢献意欲を高めた。

短期大学では、教育の活性化を目的とし、専攻科生12名をTAとして採用し、採用者は、指導方法の研修を受講後、学科学生の学修支援（課外学修）等を行った。

④ 多様な学生に対応した将来の進路を含めた指導の実施

歯科大学では、コロナ禍によって通学できない状況下で、助言教員が学生に電話やWEBでの面談を実施する等、学生が孤立しないための指導を行い、特に指導が必要な学生には個別の面談や相談を多数実施した。また、定期試験・追再試験の期間終了後や年度末の時期を中心に、学生の修学に関して学生や保護者から多く頂く相談に、学生部長、学生部次長、助言教員が個別に丁寧に対応した。

看護大学では、将来の進路の多様性を知る機会とするため、助産師や保健師の仕事内容、大学院進学等についてのガイダンス、教員による相談会、4年次生から下級生への就職・進学への姿勢や学習方法等について、経験談を基に情報伝達交流会を実施した（計5回）。就職支援として、就職合同説明会を11月23日に実施した。

短期大学では、成績不振学生や基礎実習の課外学修希望学生に対する課外時間補習授業にTAも活用し、実技試験対策ならびに国家試験対策及び未取得科目の軽減を含め、学力・技能向上に努めた。また、就職へのモチベーションアップのため、開業歯科医院等に参加を依頼し、就職ガイダンスを例年通り開催した。さらに、専攻科生の希望就職先に対応すべく、総合病院の就職先を開拓し、3名の就職が決定した。

⑤ 修学支援の実施

看護大学では、新たに最新看護索引Webを契約し、コロナ禍にあっても学生が自宅から文献検索が行えるよう環境を整えた。

短期大学では、基礎実習の予習・復習に活用できるe-learning教材を蓄積し、学生の技能向上を支援した。

⑥ 講義録画システムの活用

歯科大学では、私立学校施設整備費補助金の助成を受け、口腔医学教育の推進事業として設置されたマルチメディア装置を引き続き活用し、授業内容を復習する等学生の自学自習を促進した。

⑦ 情報図書館蔵書情報の整備等

昨年度に引き続き蔵書情報の整備の一環として、図書システムにより、学園全蔵書の2分の1に当たる約7万冊の3大学の閲覧室所蔵図書の点検整備を実施した。また、狭隘化した歯科大学の書架のスペース確保と有効活用のため、歯科大学の医科系・看護系の一部の製本和雑誌約1,700冊を看護大学に、医学系図書43冊を短大に移管し整理をした。

⑧ 電子図書収集

いつでもどこでも閲覧できる電子図書を収集するため、歯科大学・看護大学それぞれで図書購入区分に新たに電子図書を追加し、歯科大学では48冊、看護大学では11冊受け入れを行った。

（２）高校等との連携推進

教育に係る交流・連携を図ることで、双方の教育研究力の向上を目指し、同時に地域貢献や課題解決を目的として、福岡歯科大学・福岡看護大学・福岡医療短期大学と筑紫女学園高等学

校との連携協定を締結した。今後、高大連携の取り組みの実質化を図ることとしている。

歯科大学では、出前講義やオープンキャンパスで教員の講義、歯科医師体験及び在学生との交流等を通し、参加生徒に対応した。

看護大学では、依頼のあった高校及び業者主催の出張講義・進学ガイダンスに随時参加した。オープンキャンパスについては新型コロナウイルス感染状況を考慮しながら3回実施し、平日対応のZoomを利用したオンライン個別進路相談を実施した。また、高校訪問については、新型コロナウイルス感染状況を考慮しながら2回実施した。

短期大学では、看護大学と共同実施の高校教員対象オープンキャンパスを今年度は6月と10月の2回実施し、併せて28校の参加を得た。また、オープンキャンパス時に専門教育に関連する実習体験や在学生との懇談等により参加した生徒の興味や疑問等に対応した。

（３）文部科学省「高等教育の修学支援新制度（高等教育無償化）」の対象校に選定

9月に、文部科学省が実施する意欲ある子どもたちの進学を支援するため、授業料・入学金の免除または減額と、返還を要しない給付型奨学金の大幅拡充による高等教育の修学支援制度(高等教育無償化)の対象校として、歯科大学、看護大学、短期大学の3大学が引き続き選定された。

（４）学生の経済支援の充実

歯科大学では、学生共済会等と連携し、各種奨学金周知とその申請手続きの支援を適宜実施した。また、学業成績が特に優秀で品行方正かつ健康な学生27名に対して、各種特待生制度を実施した。また、今年度は文部科学省「学生等の学びを継続するための緊急給付金」に51名の学生の申請を行ったほか、経済的に困難な学生に対して適切に相談を受け、授業料減免や学生納付金納付猶予等の支援を行った。

看護大学では、昨年度に引き続き各種奨学金の周知とその申請手続きの支援等を適宜実施した。また、本学独自の看護職育成奨学金制度の周知を行い、個別に学生相談を実施した。

上記支援制度に加えて新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、文部科学省の学生等の学びを継続するための緊急給付金について周知し、対象者の推薦を行った。

また、学業成績が特に優秀で品行方正かつ健康な学生に対して実施する特待生制度について、現行4名（授業料半額免除）の推薦者数を令和4年度入学者から10名に拡充（授業料全額免除1名、半額免除4名、3割免除5名）する見直しを行った。

短期大学では、今年度も各種奨学金の案内及び手続きの支援や経済的に困難な学生の相談を受け、学生納付金納付猶予等の支援を適宜行ったほか、学業成績が特に優秀で品行方正かつ健康な学生に対して、特別奨学生制度を実施した。

コロナ禍により経済的に困窮した学生への文科省からの支援給付金等の案内を細目に周知し、申請希望者の相談に対応した。また、昨年度末閉学科となった保健福祉学科の学生後援会の資金により、1年次教材費の一部を支援するための「口腔介護支援基金」制度を制定した。

（５）福岡歯科大学学生後援会・学生共済会・同窓会との連携

① 学生後援会は、令和元年度より新型コロナウイルス感染症の影響で、年2回の理事会･評議員会合同会議は書面での開催としていたが、令和3年度第2回の理事会･評議員会合同会議については対面とZoomによるハイブリッドにて開催した。支部懇談会についても、令和4年度は3支部が開催見送りとし、開催未定の支部もあるが、8支部で開催することが決定している。

② 学生共済会は、7月及び3月に理事会・代議員会合同会議を開催し、7月は前年度の事業に関する決算等について審議を行った。また、3月の同会議では、令和3年度の事業報告と令和4年度の学生支援等の事業計画及び予算を決定した。また、令和4年度予算において、50周年記念講堂の緞帳費を学生共済会より助成することが決定した。

③ 同窓会については、毎年開催されていた同窓会定時総会懇親会及び定例懇談会が昨年同様新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったほか、同窓生のご子息、ご息女対象オープンキャンパスも同様の理由で中止となった。

（６）福岡看護大学学友会･学生後援会との連携

看護大学では、学長、学生部長等が出席し、10月に福岡看護大学学友会総会を開催し、学友会の役割と令和3年度予算案等について協議した。

10月には、学長、学部長、学生部長等が出席のもと、学生後援会理事会を開催し、特待生制度及び看護職育成奨学金制度の見直し、新型コロナウイルス感染症の影響によるオープンキャンパスの延期、体育祭・学生ボランティア・部活動等の中止のほか、学生の支援のために実施する諸事業について報告し、令和3年度予算の修正等について協議した。また、2月にも同理事会を開催し、令和3年度決算及び令和4年度予算等について協議した。

（７）福岡医療短期大学学友会･学生後援会との

連携

短期大学では、学長、学科長等が出席し、7月に福岡医療短期大学学友会総会を開催し、学友会の事業計画と役割、令和2年度決算案・令和3年度予算案等について協議した。

学生後援会は、新型コロナウイルス感染症の影響で、理事会等の会議については、書面での開催とした。

２）学生の受け入れ

（１）学生募集活動の強化と多様な選抜方法の策定

歯科大学では、入試広報について、入試委員会を中心に検討のうえ、SNS 等を活用した広報活動の強化を行った。指定校については、昨年より 111 校増やし 178 校とした。

口腔歯学部の志願者数は 140 名で、入学者数は 67 名、大学院は 12 名であった。

看護大学では、入試委員会を中心に学生募集のあり方を検討し、九州内で実施された進学説明会への参加（オンライン開催を含め 17 回）を行った。なお、全教員による高校訪問については、新型コロナウイルス感染状況を考慮しながら 2 回実施した。指定校については、昨年度の入試結果等を踏まえ、昨年より 15 校増やし 67 校とした。

また、学生募集については、本学の特色である口腔医学を取り入れた新しい看護学や well-being の考え方について高校生や教員、保護者に説明した。志願者数は昨年比 25%増の 451 名、競争倍率は昨年同様 1.7 倍となり、104 名(募集定員 100 名)が入学した。また、大学院には 7 名が入学した。

短期大学では、学長が設置した入学者倍増計画に基づく各部会により多種多様な学生募集活動を展開、リニューアルしたホームページや SNS 等の広報活動も強化し受験生確保に努めたが、定員 80 名に対し入学者 70 名となり、定員充足には及ばなかったが、昨年度より 10 名増加した。専攻科は、定員 20 名を上回り、学外入学者 4 名を含む 21 名の入学者を確保した。

（２）入学者選抜に関する広報機能の充実等

歯科大、看護大、短大の大学案内パンフレットの掲載情報を集約した学園 3 大学合同パンフレットを作成し、入学者選抜の広報ツールとして活用した。

また、歯科大学では、学生募集に繋がるエリア、ターゲットを定め、スマートフォンのアプリや SNS(LINE)に表示される広告を用いてオープンキャンパスや入学者選抜情報を配信したほか、短期大学ホームページについては、ユーザビリティ向上及び受験生獲得コンテンツの整理等をしたホームページにリニューアルした。

３）介護福祉士実務者学校（通信課程）

短期大学では、10 月期に 5 名が入学し、令和 4 年 6 月まで通信課程とスクーリング講義を実施する予定である。また、今年度から 2 年次選択必修科目「介護研修Ⅰ～Ⅴ」として在学生を対象として開講したが、選択者数の状況等を勘案し、本科目は令和 4 年度 2 年次までの開講とすることを決定した。

４．社会との連携・貢献

１）地域連携センター

地域連携センターは、地域団体との連絡調整を行って本学園全体の地域貢献の取り組みを支援してきた。日本経済新聞社により、全国 761 の国公私立大学を対象として 7～9 月に実施された「地域貢献度調査」において、福岡歯科大学は全国で 222 位、単科歯科大学としては最高位の評価を受けた。令和 2 年度以降は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために対面で行ってきた活動をほとんど自粛・休止することとなり、超高齢社会における大学の地域貢献のモデルづくりの模索を新たに課題に加えた。

（１）社会貢献活動における連携団体

① 福岡学園の所属する田村校区自治協議会及び社会福祉協議会との連携活動として、地域カフェ「かふぇもりのいえ」を公民館、学園関連施設において毎月 1 回開催し、参加者に対して「介護予防」、「子育て支援」などの健康情報の提供や、歯科無料相談、介護無料相談、内視鏡医療相談を実施してきたが、新型コロナウイルス感染拡大のため、令和 2 年 3 月以降引き続き開催を見合わせている。また、地域と学園教職員・学生との人的交流の機会であった、田村自治協議会主催の夏祭り・運動会、ならびに本学園の学園祭も昨年度に引き続き中止となった。

② UR 九州支社との包括連携協定に基づいて、星の原団地自治会との連携のもとでの地域カフェ、子ども食堂への学生ボランティア参加支援、団地住民向け健康講座（UR Community College 星の原校）も昨年度に引き続き中止した。

③ 野芥校区自治協議会・早良区社会福祉協議会・福岡未来創造プラットフォームとの連携のもとでの同校区子ども食堂への歯科大学ならびに看護大学の学生ボランティア派遣も昨年

度に引き続き中止したが、福岡市西部地区五大学連携および福岡未来創造プラットフォーム共同開催参画大学の学生派遣の連絡調整は今年度も行った。
④ 早良区地域保健福祉課ならびに福岡市歯科医師会早良支部との学官民連携に基づいて、早良区のアクティブシニア世代に対するオーラルフレイル予防事業を立ち上げ、福岡県歯科衛生士会とも連携し、コロナ禍でのオーラルフレイル予防を念頭においた案内を昨年度に引き続き配布した。
⑤ 早良区地域保健福祉課主催の年次恒例健康イベント、福岡市歯科医師会、糸島市歯科医師会主催の、「福岡市民の健康を歯と口から守る集い」、「糸島市民の歯の健康のつどい」、「早良区健康まつり」は昨年度に引き続き中止となり、医科歯科総合病院歯科医師・歯科衛生士の派遣を通じた社会貢献はできなかった。
⑥ 福岡未来創造プラットフォーム実施の中村学園大学栄養科学部大学院生の歯科大学施設利用臨地実習を実施した。
⑦ 医療関係職の職業教育ならびに養成課程に関する教育の支援について、近隣の公立中学校等からの生徒受け入れを昨年度に引き続き中止した。

（２）地域住民向け健康教育等の公開講座開催

① 短期大学公開講座「伸ばそう健康寿命！」は、感染防止に留意し、来学受講者を制限して10月29日(日)にハイブリッド形式で開催し、来学28名、オンライン23名計51名が受講した。福岡歯科大学公開講座（医科歯科総合病院健康講座）、看護大学公開講座はいずれも中止した。
② 出前講座は、開催を中止した（一昨年度48回実施、1,196名受講、昨年度1件試験実施）。
③ UR星の原団地では、健康調査を実施した。
④ 超高齢過疎地区（早良区板屋地区）における住民健康診断は、実施主体を訪問歯科センターに移して実施し、結果報告ならびに健康相談を行った。
⑤ 大学連携（七隈線沿線三大学合同シンポジウム、福岡未来創造プラットフォーム）事業として行われてきた、中村学園大学栄養クリニック健康フェスティバルなどの対面イベントはすべて延期・中止された。一方、リカレント教育プログラム「子どもの貧困を科学する」は今年度もオンライン授業の企画実施に参画した。

（３）医療介護従事者向け生涯研修・リカレント教育講座開催

① 医科歯科総合病院では、「連携の会」を1回開催し、近隣の医療介護従事者を対象とした多職種入り混じりのリカレント教育の場を設けた。また、臨床研修医対象に開講している臨床セミナーを公開セミナーとしていたが、本年度はコロナウイルス感染症拡大防止の観点から非公開とした。
② 歯科大学では、大学院特別講義を口腔医学専攻の大学院生のみならず広く教職員等に公開した。また、同窓生や開業歯科医師等を対象とした生涯研修やセミナー等を開催し、口腔医療を実践できる人材の育成と最新の医療情報の発信に努めた。令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、参加上限数及び開催プログラム数を削減したものの、5プログラム（「摂食嚥下リハビリテーションに役立つ知識」、「歯周組織再生療法セミナー」、「スケーリング・ルートプレーニングセミナー」、「睡眠時無呼吸マウスピース治療実践セミナー」、「口腔インプラント初級講習会」）を開催し、68名が参加した。
③ 短期大学では、リカレント教育として文部科学省の委託を受け、平成21・22年度に実施した「歯科衛生士の口腔機能向上スキルアップ講座」の経験を踏まえ、令和3年度は特別編として新人歯科衛生士を対象とし、「歯周治療のメンテナンスに強くなろう！」をテーマに感染防止に留意し、来学受講者を制限して、3月13日（日）にハイブリッド形式で開催し、来学10名、オンライン3名計13名が受講した。

２）医科歯科総合病院

（１）患者数等

万全な新型コロナウイルス感染症対策を実施したうえで診療を行った結果、歯科、医科とも診療稼働額が伸びた。

外来患者は、
歯科　119,846人［470.91人/日］
医科　59,349人［233.20人/日］
外来計179,195人［704.11人/日］
（前年度146,705人［567.74人/日］）
入院患者は、
歯科　4,412人［12.09人/日］
医科　8,422人［23.07人/日］
入院計 12,834人［35.16人/日］
（前年度 10,010人［27.42人/日］）
医療収入は、2,167,370千円
（前年度1,625,804千円）
であった。

（２）安全で良質な医療の提供

① 医療事故防止のための相互チェック受審
病院機能の質の向上を目的とし、オンラインで実施された「医療事故防止のための相互チェック」に参加し、改善が必要な事項を確認した。
② 健診センターの業務拡大
福岡県歯科医師国保組合の被保険者を対象とした健康診断の健診実施医療機関として登

録し令和3年4月1日から受け入れを開始した。
協会けんぽの被保険者、被扶養者の健診を、令和4年4月から開始する。
健診の質の向上を目的とした、セミナー、多職種連携勉強会を昨年度に引き続き開催した。
③ 新型コロナウイルス感染症対策
年度当初に発熱外来棟を設置し、感染対策を強化した。
病院エントランスでの手指消毒、検温、マスク着用を確認し、発熱及び体調の異常を訴える患者は、パーテーションで区切ったトリアージ待合での問診の後、必要があれば発熱外来棟で診察を行い、感染の疑いがある患者と他の患者との導線を区分した。
また、ICT メンバーによる院内ラウンドで判明した手洗い場、歯磨きコーナー等における感染のリスクに逐次対応している。

（3）病院管理体制の強化

① 病院経営戦略会議の活動
令和2年10月に病院経営戦略委員会を設置し、病院全体、医科部門、歯科部門の目標再設定と具体的活動案を検討し、病院の方針案をまとめ各診療科に提示した。
各診療科は、病院の方針に沿って目標の再設定を行い、目標を達成するための外来患者、入院患者、手術、診療単価等の増加方策等に取り組んだ結果、令和3年度の診療稼働額は大きく向上した。
理事長、病院経営戦略委員会による診療科ヒアリングを令和4年1月24日から3月7日まで実施し、診療科からの提案を聴取し、意見交換を行い、各診療科の今後の目標及び活動を確認した。実施可能な事項はすぐに実行に移し、病院運営の改善を図っている。
② 災害対策
令和 2 年度に策定した福岡学園病院地区隊災害対策マニュアル、災害対策アクションカードにより、災害実地訓練を令和3年5月に開催した。

（4） 地域への貢献

① 病診連携
地域医療機関との連携強化を目的として「連携の会」を開催し、4月に新設した放射線診断科および小児口腔外傷センター、摂食嚥下・言語センターの取り組みを紹介した。
近隣医療機関より 30 名の出席があり、本院と地域医療機関との連携の強化を図ることができた。
② 福岡県済生会福岡総合病院との連携
済生会病院入院患者に対し周術期等口腔機能管理を継続実施した。また、毎月1回の小呂島離島診療に参加し島民の健康管理に寄与した。
③ 地域医療機関、施設への訪問歯科診療の実施
医療および教育等の分野で相互に協力し、地域医療の発展、診療の充実および人材の育成に寄与することを目的として、市内 10 医療機関・施設に口腔ケアを中心とした訪問診療を実施した。

（5）歯科医師臨床研修

令和3年度歯科医師臨床研修は、新型コロナの影響で代替研修に置き換わった研修もあったが、研修歯科医 49 名全員（複合型研修プログラム 29 名、単独型研修プログラム 20 名）に対し、令和4年3月25日に修了証を授与した。

（6）人材育成

新人看護師対象の研修プログラムを立案し、院内研修、福岡県看護協会のオンデマンド研修と他部署へのローテーション研修を実施した。
プリセプターシップを導入し、先輩看護師が新人看護師をマンツーマン指導により教育支援を行った。新卒看護師は、計画に沿って看護実践能力の向上と業務拡大が図れており、一部指導を受けながらも1人での看護実践が可能となった。
また、e－ラーニングを活用し、全看護師対象の院内研修会を開催し、看護業務の能力向上を図った。
『福岡歯科大学医科歯科総合病院における採血および静脈注射のガイドライン』に沿って、静脈注射認定看護師（IV ナース）教育プログラムを立案・実施し、対象者 46 名全員が IV ナースに認定された。

3） 口腔医療センター

（1）患者数等

開院から 10 年目を迎え、専任歯科医師 10 名、歯科衛生士 11 名の体制で患者数の増を目標としたが、新型コロナウイルスの影響もあり年間患者総数は 26,570 人、1 日あたりの患者数は 111.2 人と目標には達しなかった。
また、医療収入は 258,207 千円となった。診療単価（9,717.9 円）は目標値（9,503.8 円）をクリアした。

（2）実習・研修施設としての活用

昨年度に引き続き臨床研修歯科医複合型プログラム前期5名、後期4名、単独型プログラム 20 名、福岡医療短期大学専攻科の臨床実地生及び3年次の臨床実習生を受け入れ、実習・研修施設としての役割を果たした。

（3）セミナー室の活用

博多駅前という立地条件を生かし、同窓生や開業歯科医師等を対象とした大学主催の生涯研修の開催場所としてセミナー室を活用した。大学共催の生涯研修として、昨年度に引

き続き実施した。

今年度は新型コロナウイルス感染流行の影響で人員を縮小しての実施となり、歯科医師・歯科衛生士を対象とした「スケーリング・ルートプレーニングセミナー」(11 月 27 日開催　参加者：15 名)、歯科医師を対象とした「睡眠時無呼吸症候群マウスピース治療実践セミナー」(1 月 29 日開催　参加者：12 名)となった。

（4）理事長ヒアリングによる経営改善への取り組み

① 患者増対策

ⅰ）4 月より土曜診療を休診し、平日の診療の充実を図った。

ⅱ）予約枠を基本 45 分とし、1 日当たりの患者数の目標値 124 人と設定したが、111.2 人と目標には達成しなかった。

② 診療単価増対策

福岡市歯科医師会へ加入し、訪問歯科センターとの連携を行い「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所（か強診)」の施設基準の申請を行った。

③ 物流管理の改善

物流管理システム(SPD)を 10 月より導入し、物品の定数配置を行い、効率的な医療材料の管理を行った。

（5）10 周年記念報告会

令和 3 年 12 月 14 日に開院から丸 10 年が経過し、令和 4 年 2 月 26 日に記念報告会を開催した。新型コロナウイルス感染流行期ということで、参加人数の制限やアクリル板の設置等、感染対策に配慮しての実施となった。

4）介護老人保健施設

（1）利用者数

施設の独立した採算を目指して、令和 3 年度は施設活性化検討委員会を 8 回開催し、利用者増、業務改善を図った。令和 3 年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、入所については8月から9月まで在宅からの新規入所者の受け入れを一時停止し、通所については、1 日の利用人数を 30 人以下に抑え、密を回避した。1 月には通所職員にコロナ陽性者が 1 名でたため、7 日間の営業を停止した。その結果、令和 3 年度入所 1 日平均は 69.9 人（令和 2 年度：71.4 人）で、前年度比 1.5 人減、通所利用者は、令和 3 年度 1 日平均は 22.7 人（令和 2 年度：22.7 人）で、前年度比±0 人となった。なお、9 月 1 日付けで歯科大病院の言語聴覚士が配置され、入所者 18 人、通所利用者 13 人の嚥下評価を実施し、利用者へのアピールに貢献している。

サンシャインシティ施設利用者数等は表 9 のとおり。

表 9　サンシャインシティ施設利用者数等

利用者(定員)	年間利用延数(人)	稼働率(%)	対前年比	1 日当平均(人)
入所者(85 人)	25,530	82.3	1.6%減	69.9
通　所(40 人)	6,539	56.7	±0%	22.7

（2）教育・実習施設としての活用

福岡看護大学第 3 学年の実習は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、施設からの事例提供による看護大学での実習とし、12 グループ 102 人が実習を行った。また、福岡大学看護学科は計 11 人、中村学園大学大学院生は 5 人の実習を行った。

（3）新型コロナウイルス感染対策

新型コロナウイルス感染対策として、福岡市の新規感染者数、緊急事態宣言等の発出の有無により家族の面会を全面禁止や玄関ホールでのアクリル板越しの面会、iPAD を利用した WEB 面会で対応した。また、令和 2 年度に引き続き通所利用者の送迎時の検温、施設内の消毒、職員の健康管理等を徹底して感染防止に努めた。

（4）介護報酬改定

令和 3 年度に介護報酬改定があり、10 月から厚労省が導入した科学的介護情報システム（LIFE）へのデータ提出を開始し、新規加算を取得した。また、在宅復帰・在宅療養支援機能に対する評価ポイントの改正については言語聴覚士を非常勤で配置し、リハビリ職員配置割合のポイントを維持した。

5）社会連携

（1）大学連携事業

①「地下鉄七隈線沿線三大学連絡協議会」(中村学園大学、福岡大学、福岡歯科大学）においては、昨年度に引き続き三大学の特色を生かした教養系共同開講授業科目「食と栄養と健康～加齢による心身の衰え（フレイル）を防ぐために～食と栄養から考える～～」を開講したが、コロナ禍で感染拡大防止を念頭にオンライン講義となった。

また、地域の健康づくりや疾病予防等を通じて地域社会に貢献してきた 4 月の一般市民参加のウォーキングイベントは中止、10 月の合同シンポジウムは延期となった。

②「西部地区五大学連携懇話会」(九州大学、西南学院大学、中村学園大学、福岡大学、福岡歯科大学）においては、引き続き単位互換科目を設定するとともに、五大学共同開講授業科目「博多学」を開講し、現地見学授業の一部はオンライン代替授業として実施し、新型コロナウイルス感染拡大防止と学生の修学の機会を損

なわないことの両立を図った。また、職員研修の相互開放を実施した。
③ 「福岡未来創造プラットフォーム」
5つのWGのうち、関連するWGに参画し、各種取り組みを実施した。

（２）地域包括ケアシステムの構築支援

地方自治体、医療・介護・福祉団体及び地域での多職種連携を基盤とした地域包括ケアシステムの構築のため、下記のような支援を行った。
① 福岡市歯科口腔保健推進協議会・福岡市歯科口腔保健推進アクションプラン（仮）検討WGへの教員派遣
令和 2 年度に協議会内でワーキンググループ（福岡市歯科口腔保健推進アクションプラン（仮）検討 WG）を立ち上げ、ふくおか 100 認定事業として福岡市民の口腔保健を推進する事業の創出について 3 回のオンライン協議を継続した。
② 早良区地域保健福祉課・福岡市歯科医師会早良支部・福岡県歯科衛生士会との学官民連携による早良区高齢者オーラルフレイル予防事業の拡大
事業4年目にあたり、早良区の全公民館（小学校区）でオーラルフレイル予防事業を展開する事業計画であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のために実施を延期した。なお、同事業について、早良区地域保健福祉課、早良区歯科医師会等と協力して作成したパンフレットの配布を継続した。
③ 医科歯科総合病院及び口腔医療センター通院圏域の公民館・自治会からの要請に基づく出前講座、「かふぇもりのいえ」・「星の原カフェ・やすらぎ食堂」・「野芥校区学習支援活動」へのボランティア学生派遣による開催支援については、新型コロナウイルス感染拡大防止のために昨年度に引き続き全面休止した。

６）国際連携

（１）大学間交流等

① 福岡歯科大学
令和元年12月から世界的に流行が始まった「新型コロナウイルス感染症」の影響により、令和2年度に引き続き、令和3年度の姉妹校との交流も全て中止となった。
② 福岡看護大学
リバプール大学（イギリス）との相互交流を目指し、検討を継続している。
③ 福岡医療短期大学
姉妹校協定を結んでいた東釜山大学が廃校となったため、今後の交流先について検討を続けている。

（２）海外研修派遣

令和元年 12 月から世界的に流行が始まった「新型コロナウイルス感染症」により、海外渡航が制限され、令和 3 年度における教員及び大学院生の海外研修派遣は実施できなかった。

５．組織運営及び財務強化・施設整備

１）教育・研究組織等の活性化

（１）福岡看護大学専任教員採用等設置計画変更及び設置計画履行状況等調査結果

福岡看護大学専任教員採用等設置計画変更（AC教員審査）に大学院准教授（学部における職位は教授）1名を諮り、大学院教授の職位適格の判定を受けた。次に、教授１名が大学院の教授の職位適格、Mマル合、准教授１名が大学院准教授の職位適格、Mマル合の判定を受けた。また、大学院講義科目のみ担当している、M可の教授１名を、研究指導科目について審査に諮り、Mマル合の判定を受けた。さらに、M合の大学院教授１名及び准教授１名がMマル合の判定を受けた。
令和3年度文部科学省による大学院設置にかかる設置計画履行状況等調査の結果、指摘事項は付されなかった。
大学等設置に係る寄附行為（変更）認可後の財政状況及び施設等整備状況調査（令和3年度）結果については、指摘事項（改善）として「福岡医療短期大学歯科衛生学科の今後の定員充足の在り方について検討し、定員未充足の改善に取り組むこと。」が付された。短大歯科衛生学科については、令和4年度入学者が前年度より増加しているため、改善傾向にある。

（２）社会の変化に柔軟に対応出来る教育研究組織の構築

病院の将来的な構想等を踏まえて、10 月 1 日付で訪問歯科センターの教員定数を 3 名から 4 名に、全身画像診断学分野の名称を「放射線診断学分野」に変更した。また、令和 4 年 4 月から病院に呼吸器科を設けることに伴い、11 月 16 日付で内科学分野の定数を教授 2、准教授 1、講師 1、助教 2 へと変更した。

（３）効率的な事務組織の構築

4 月 1 日付で総務課・施設課・アニマルセンターの 3 部署を、総務課及び教育研究支援課の 2 部署に改組した。

２）人事制度の充実と人材確保

（１）柔軟で多様な人事制度の構築

① 任期制教員の再任
任期満了となる教員（歯科大学：教授 6 名、准教授 1 名、講師 4 名、助教 7 名）（短期大学：

教授１名、講師３名）の再任について、審議の結果、申請者全員を再任した。

（２）大学運営の活性化と人材育成等

① 人事考課システムの効率化と効果的活用

教員にかかる人事考課マニュアルの改正を行い、提出書類の簡略化を行った。また、事務局管理職を対象に、人事考課の平準化を目的として考課者研修を行った。

② 人材育成

「新型コロナウイルス感染症」の影響により、学外主催の研修への参加が困難となったが、オンライン開催の能力向上セミナー等に事務職員が 19 名参加した。**（別表 5）** 学内では、8 月に教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図ることを目的とする SD「学生の多様性（LGBT)について」を、9 月に「歯科医師国家試験合格に向けた低学年の教育サポート体制について」を行った。**（別表 6）** また、西部地区五大学連携懇話会の職員研修「ビジネスマナー基礎研修」や福岡未来創造プラットフォーム主催「ICT を用いた同時双方向型の遠隔授業に関する SD 研修」等、他大学と連携した研修に事務職員 9 名が参加した。**（別表 7）**

③ 有能な人材確保に向けた募集内容の変更

事務職員募集に際して、写真等を用いた魅力ある内容に改編するとともに、近隣大学就職課等への募集依頼を行った。

（３）役員、監事、顧問、学長、役職教員の選任等

① 役員等の選任

ア）阿南壽氏の令和４年３月 31 日２号理事退任に伴い、後任に坂上竜資氏を選任することが第 175 回評議員会（令和４年３月開催）において決定。任期は、令和４年４月１日から令和５年８月２日まで。

イ）川野庸一氏の令和４年３月 31 日評議員辞任に伴い、後任に古村南夫氏を選任することが第 571 回理事会（令和４年２月開催）において決定。任期は、令和４年４月１日から令和５年８月２日まで。

ウ）令和４年３月 31 日顧問（弁護士）の任期満了に伴い、木下明氏を再任することが第 571 回理事会（令和４年２月開催）において決定。任期は令和４年４月１日から３年間。

エ）第 571 回理事会（令和４年２月開催）において、病院の管理運営の指導及び助言等を担当する病院顧問（常勤）として阿南壽氏に委嘱することを決定。任期は令和４年４月１日から１年間。

オ）第 571 回理事会（令和４年２月開催）において、福岡学園の情報環境整備の指導及び助言等を担当する情報顧問（非常勤）として藤村直美氏に委嘱することを決定。任期は令和４年４月１日から１年間。

② 役職教員等の選任

ア）第 571 回理事会（令和４年２月開催）において、令和４年４月１日付けで病院長に坂上竜資氏（歯周病学分野・教授）、情報図書館長に大星博明氏（内科学分野・教授）、社会医歯学部門長に壬生正博氏（言語情報学分野・教授）、を選任。任期は、令和５年３月 31 日まで。

イ）令和４年３月 31 日付けで任期が満了する副病院長について、令和４年４月１日付けで古村南夫氏（皮膚科学分野・教授）を選任、樋口勝規氏、中畑高子氏（ともに客員教授）、都築尊氏（有床義歯学分野・教授）を再任することを第 571 回理事会（令和４年２月開催）において決定した。任期は、樋口勝規氏及び中畑高子氏（令和５年３月 31 日まで）を除き令和６年３月 31 日まで。

ウ）令和４年３月 31 日付けで任期が満了する口腔医療センター長、口腔医学研究センター長、アニマルセンター副長について、令和４年４月１日付けで口腔医療センター長に泉利雄氏（口腔医療センター・教授）、口腔医学研究センター長に平田雅人氏を再任、アニマルセンター副長に吉永泰周氏（歯周病学分野・准教授）を選任することを第 716 回常任役員会（令和４年１月開催）において決定した。任期は、平田雅人氏（令和５年３月 31 日まで）を除き令和６年３月 31 日まで。

エ）第 571 回理事会（令和４年２月開催）において、令和４年４月１日付けで看護大学の基礎・基礎看護部門長に晴佐久悟氏（基礎・専門基礎分野・教授）、地域・在宅看護部門長に宮園真美氏（地域・在宅看護部門・教授）、教育支援･教学 IR 室長に大久保つや子氏（客員教授）を選任。任期は、令和５年３月 31 日まで。

オ）第 571 回理事会（令和４年２月開催）において、令和４年４月１日付けで福岡医療短期大学の歯科衛生学科長に松尾忠行氏（歯科衛生学科・教授）を選任。任期は、令和５年３月 31 日まで。

カ）第 572 理事会（令和４年３月開催）において、令和４年３月で任期満了となる介護老人保健施設、中島與志行施設長の後任に、松元幸一郎氏を選任した。

３）評価システムの充実

（１）福岡歯科大学

昨年度受審した大学基準協会の認証評価における結果に基づき実施した改善等について、「福岡歯科大学　点検・評価報告書 ‘20 改善報告書」を作成し、ホームページで学内外に公開した。

（２）福岡看護大学

令和 4 年度の大学基準協会による認証評価受審にかかる対応として、7 月に「福岡看護大学の各種方針等」として、「内部質保証の方針、体制及び手続」等を制定した。また、学長が委員長を務める自己点検・評価委員会が中心となって「福岡看護大学　点検・評価報告書」を作成した。その他、2017 年度から 2020 年度までの 4 年間に渡る各種委員会の活動実績、および教育・研究、地域貢献や大学運営などにおいて積み上げてきた実績等を明らかにするとともに、大学基準協会が定める 10 の評価基準に準拠した自己点検・評価の項目を用いて、これら実績に対して行った評価、明らかになった課題や今後の展望についても報告するため「福岡看護大学《現状と課題》―開学から完成年度を迎えて―2017 年度～2020 年度」を 8 月に発行し、ホームページで公開している。

（３）福岡医療短期大学

6 月に大学・短期大学基準協会へ自己点検・評価報告書等を提出し、9 月にオンラインにて認証評価を受審し、3 月 11 日付で同協会から「短大基準に適合している」との評価結果および適格認定証を受領した。

４）情報公開の充実

（１）情報公開等の推進

① 大学ポートレートに参画するとともに、更新を継続して行った。

② 財務情報については、7 月発行の学園広報誌に前年度決算概要を掲載、学園ホームページで概要に加え財務諸表及び関連データを公開した。

５）危機管理体制の強化

（１）情報化組織及び管理体制の整備・充実

学内情報基盤の重要な機器である学内 LAN の基幹スイッチと無線 LAN 関連機器が令和 4 年度に保守期限を迎えるため、学内 LAN の現状を調査し、最適な基幹スイッチと無線 LAN 機器を選定した。

（２）学校法人危機管理規程の制定及び防火防災管理規程の改正

昨年度制改正した危機管理規程及び防火防災管理規程に基づき策定した各地区隊の「災害対策マニュアル」を教職員へ配布した。

（３）医科歯科病院の災害時危機管理対策

災害対策マニュアル、アクションカードを見直し、5 月 26 日に災害対応訓練を実施した。

（４）内部監査

令和 3 年度内部監査計画に基づき、福岡歯科大学等 3 大学における「研究データの保存・管理」、「学生後援会の業務（事業）」、「公的研究費及び学内研究費（受託研究費を含む）の会計処理」のほか、病院における「医療情報システムにかかる管理運営」等の適切性等に関する監査を行い、必要に応じて指摘・要請等を行った。

６）財政基盤の強化

（１）外部資金獲得

① 福岡歯科大学

私立大学等改革総合支援事業のタイプ 1（「『Society5.0』の実現等に向けた特色ある教育の展開」）に選定され、経常費補助金の増額補助（一般補助：11,179 千円、特別補助：6,300 千円）を受けた。その他、口腔医学研究センター設置のフローサイトメーター整備費として、私立大学等研究設備整備費等補助金 8,103 千円の助成を受けた。また、奨学寄付金 23 件（12,979 千円）、受託研究 4 件（71,388 千円）を受け入れた。

② 福岡看護大学

ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業費として、9,861 千円の助成を受けた。また、受託研究 3 件（3,490 千円）を受け入れた。

③ 福岡医療短期大学

マルチメディアを活用した臨床実習に即応するアクティブラーニング実習環境整備費として、私立学校施設整備費補助金 40,000 千円の助成を受けた。また、奨学寄付金 1 件（2,000 千円）を受け入れた。

（２）寄付金の受入れ

学園ホームページで卒業生、保護者を含む広く一般の方々への寄付金募集を行い、3 月末までの個人寄付は、7 件、1,050 千円となった。

個人寄付内訳（寄付目的別※50 周年記念募金は別掲）は表 10 のとおり。

表 10　個人寄付内訳（寄付目的別）　（単位：千円）

区 分	歯科大	短大	病院	計
教育研究活動の振興	110	500	0	610
田中健藏基金	130	0	0	130
その他	0	0	310	310
計	240	500	310	1,050

この他、外郭団体の福岡歯科大学学生共済会から 40,671 千円【修学支援事業（特待生・SA）：40,363 千円、学生研修センター維持整備事業等：308 千円】の寄付があった。

（３）エネルギー使用量の削減

エネルギー使用量は、前年度比 電気 1.2%減、ガス 36.0%増となった。

特にガス使用量については、新病院が竣工していない令和 2 年度上半期との比較で 82.0%の増加となっており、新病院にガスを使用する

空調設備等が多数設置されたため大幅に増加した。料金は、原油価格の上昇に伴い、平均単価が電気1円/kWh、ガス20円/㎥それぞれ上昇したことも影響し、電気4.1%増、ガス60.0%増となった。

また、エネルギー使用合理化については、省エネ法による「エネルギー管理員」選任届出を終え、管理標準を設定した。

7）キャンパス整備

（1）新キャンパス整備計画

第563回理事会及び第173回評議員会（令和3年5月開催）において、校舎・施設・設備の刷新と教育・研究機能の向上を目的に、既存キャンパスの再整備を推進することを決定した。この計画は、「本館（旧病院棟を含む）」、「体育館」、「アニマルセンター」、「解剖実習棟」、「弓道場・部室棟」、「体育部室」等を順次新築するもので、現在、基本計画等を策定中である。なお、新本館は歯科大学に加え、短期大学の校舎として共用予定である。

（2）50周年記念講堂の建設

令和3年3月30日に執り行った起工式を皮切りに、令和4年7月竣工に向けて計画どおり着々と工事を進めた。

（3）既存施設・設備の改修・更新

① 福岡医療短期大学トイレ改修工事

学生にとってより良い環境となるよう、1階及び3階女子トイレの改修工事を行った。

② アニマルセンター設備更新

老朽化対策として、屋上防水及びボイラー更新を実施した。なお、ボイラーについては、新アニマルセンター開設後に移設し、バックアップ設備として有効利用することにしている。

（4）福岡医療短期大学3階マネキン実習室改修工事の実施

文部科学省私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費の採択を受けて、開学当初から20年以上使用したマネキン実習室の改修工事を実施し、より効率的な教育の提供が可能となり、学生にとって最適な学修環境となった。

8）その他

（1）歯科大学名誉教授称号授与

教育上又は学術上特に功績があった者に付与される名誉教授の称号について、石川博之氏、廣藤卓雄氏が推薦され、第562回理事会（令和3年5月31日）で決定し、令和3年7月27日に授与された。

（2）福岡学園開学記念式典の実施

学園の開学記念式典を7月27日に実施し、名誉教授称号授与、永年勤続表彰及び特待生表彰等を行い、学内外から約130名の参加者があった。

（3）学校法人福岡学園・福岡歯科大学創立50周年記念事業

令和4年（2022年）に学校法人福岡学園及び福岡歯科大学が創立50周年を迎えるにあたり、平成30年（2018年）7月より募金活動を開始した。3月末現在で962件、10,125万円の寄付をいただいた。また、学生ホールにおいて50年を振り返る写真展を実施したほか、50周年特設サイトの充実を図った。7月上旬には、50周年記念講堂の竣工式を執り行い、7月24日に記念式典を実施予定。

（4）新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症の全学的な対応を協議するため、令和2年4月3日から継続して開催している理事長、歯科大学長、病院長、短大学長、看護大教授、老健施設長等を構成員とする「COVID-19対策会議」において、同感染症の感染状況、感染対策等について協議した。また、政府等から発出される緊急事態宣言及び福岡県からの休業協力の要請を受け教職員の「在宅勤務」「ローテーション勤務」「時差出勤」を実施した。なお、同会議は現在も継続して実施している。

また、ワクチンの職域接種を申請し、7月から学園内3大学の学生及び教職員の希望者のみならず、近隣の公民館を通じて接種希望者を募り、医科歯科総合病院にて1回目、2回目合わせて延べ1,600名程度へワクチンを接種した。

さらに、ワクチン接種の担い手不足が深刻化する中、歯科医師にも特例で容認されたため、福岡市からの要請のもと、本学園の医師、看護師に加え、歯科医師も集団接種会場において打ち手として支援を行い、社会貢献に努めた。

Ⅲ．財務の概要

１．決算の概要

１）貸借対照表関係

（１）貸借対照表の状況と経年比較

令和３年度の資産の部合計は 684 億 6,700 万円、負債の部合計は 102 億 5,800 万円、純資産の部合計は 582 億 900 万円となった。

（単位：千円）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度
固定資産	60,559,670	63,431,177	67,650,288	64,854,525	66,483,485
流動資産	1,319,240	1,831,187	1,310,793	2,040,237	1,983,074
資産の部合計	61,878,910	65,262,364	68,961,081	66,894,762	68,466,559
固定負債	1,287,998	4,290,229	7,505,384	6,783,802	8,151,459
流動負債	1,235,271	1,070,352	1,454,574	1,742,173	2,106,189
負債の部合計	2,523,269	5,360,581	8,959,958	8,525,975	10,257,648
基本金	61,644,241	60,725,805	61,211,368	58,171,191	59,161,488
繰越収支差額	△ 2,288,600	△ 824,022	△ 1,210,245	197,596	△ 952,577
純資産の部合計	59,355,641	59,901,783	60,001,123	58,368,787	58,208,911
負債及び純資産の部合計	61,878,910	65,262,364	68,961,081	66,894,762	68,466,559

（２）財務比率の経年比較

比率名	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度
運用資産余裕比率	713.1%	679.8%	665.4%	525.4%	465.2%
流動比率	106.8%	171.1%	90.1%	117.1%	94.2%
総負債比率	4.1%	8.2%	13.0%	12.7%	15.0%
前受金保有率	130.8%	250.2%	149.1%	314.8%	289.8%
基本金比率	99.9%	95.3%	90.4%	90.5%	88.4%
積立率	97.4%	100.2%	99.4%	102.2%	99.9%

２）資金収支計算書関係

（１）資金収支計算書の状況と経年比較

令和３年度決算における収入は、学生生徒等納付金収入 32 億 7,400 万円、補助金収入 5 億 2,400 万円、医療収入 24 億 2,600 万円、受取利息・配当金収入 5 億 5,600 万円、借入金等収入 23 億円など 142 億 2,300 万円となり、これに前年度繰越支払資金 14 億 500 万円を加えた収入合計は 156 億 2,800 万円となった。支出は、人件費支出 43 億 7,600 万円、教育研究経費支出 19 億 5,600 万円、管理経費支出 4 億 2,500 万円、施設関係支出 26 億 600 万円など 143 億 800 万円となり、収入合計からこれを差し引いた翌年度繰越支払資金は 13 億 2,000 万円となった。

（単位：千円）

収入の部	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度
学生生徒等納付金収入	3,233,725	3,370,866	3,354,585	3,448,955	3,273,855
手数料収入	33,625	32,779	32,303	28,363	30,120
寄付金収入	77,679	302,164	82,524	65,921	98,091
補助金収入	595,017	569,345	451,132	478,498	524,117
資産売却収入	112,850	1,090,555	919,365	1,952,690	357,451
付随事業・収益事業収入	513,595	516,128	510,373	500,914	530,367

収入の部	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度
医療収入	1,783,549	1,890,607	2,013,107	1,833,901	2,425,577
受取利息・配当金収入	803,356	634,307	632,595	591,839	556,376
雑収入	255,380	204,202	191,277	277,939	241,720
借入金等収入	0	3,000,000	3,400,000	0	2,300,000
前受金収入	593,213	533,428	518,713	446,363	455,546
その他の収入	5,652,877	10,095,340	3,242,161	4,372,549	4,454,016
資金収入調整勘定	△ 1,066,408	△ 1,055,882	△ 1,014,098	△ 1,081,654	△ 1,024,703
前年度繰越支払資金	812,498	776,134	1,334,720	773,590	1,405,326
収入の部合計	13,400,956	21,959,973	15,668,757	13,689,868	15,627,859

支出の部	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度
人件費支出	4,234,851	4,297,610	4,365,378	4,441,026	4,375,793
教育研究経費支出	1,519,205	1,686,472	1,656,440	2,738,149	1,956,038
管理経費支出	322,405	346,418	361,143	438,903	425,203
借入金等利息支出	0	0	12,025	20,087	18,521
借入金等返済支出	0	0	0	340,020	715,020
施設関係支出	124,183	4,138,161	3,833,751	782,489	2,605,774
設備関係支出	191,236	114,772	193,745	1,631,690	172,691
資産運用支出	6,312,851	9,942,757	4,501,953	1,852,400	4,133,700
その他の支出	431,804	518,398	435,827	507,406	492,797
資金支出調整勘定	△ 511,713	△ 419,335	△ 465,095	△ 467,628	△ 587,952
翌年度繰越支払資金	776,134	1,334,720	773,590	1,405,326	1,320,274
支出の部合計	13,400,956	21,959,973	15,668,757	13,689,868	15,627,859

（２）活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

令和３年度決算における教育活動資金収支差額は３億6,600万円、施設整備等活動資金収支差額は△26億7,300万円、その他の活動資金収支差額は22億2,200万円となった。

（単位：千円）

科　目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	6,422,384	6,713,909	6,607,434	6,600,307	7,059,844
教育活動資金支出計	6,075,965	6,330,248	6,382,962	7,588,482	6,756,961
差引	346,419	383,661	224,472	△ 988,175	302,883
調整勘定等	69,080	△ 111,424	△ 47,913	△ 117,375	62,620
教育活動資金収支差額	415,499	272,237	176,559	△ 1,105,550	365,503
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	2,538,643	9,272,180	1,325,151	2,588,772	875,844
施設整備等活動資金支出計	2,915,837	13,380,001	5,327,346	2,914,178	3,595,744
差引	△ 377,194	△ 4,107,821	△ 4,002,195	△ 325,406	△ 2,719,900
調整勘定等	22,057	2,090	46,994	△ 39,871	46,987
施設整備等活動資金収支差額	△ 355,137	△ 4,105,731	△ 3,955,201	△ 365,277	△ 2,672,913
小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）	60,362	△ 3,833,494	△ 3,778,642	△ 1,470,827	△ 2,307,410

科　目		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度
その他の活動による資金収支						
	その他の活動資金収入計	3,620,342	5,229,575	6,439,741	3,882,626	6,293,420
	その他の活動資金支出計	3,717,068	837,495	3,221,328	1,780,130	4,070,495
	差引	△ 96,726	4,392,080	3,218,413	2,102,496	2,222,925
	調整勘定等	0	0	△ 901	67	△ 567
	その他の活動資金収支差額	△ 96,726	4,392,080	3,217,512	2,102,563	2,222,358
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）		△ 36,364	558,586	△ 561,130	631,736	△ 85,052
前年度繰越支払資金		812,498	776,134	1,334,720	773,590	1,405,326
翌年度繰越支払資金		776,134	1,334,720	773,590	1,405,326	1,320,274

（３）財務比率の経年比較

比率名	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度
教育活動資金収支差額比率	6.5%	4.1%	2.7%	-16.7%	5.2%

３）事業活動収支計算書関係

（１）事業活動収支計算書の状況と経年比較

令和３年度決算における事業活動収入は 77 億 2,200 万円、事業活動支出は 78 億 8,200 万円となり、基本金組入前当年度収支差額は△1 億 6,000 万円となった。この額から基本金組入額合計 9 億 9,100 万円を差し引いた当年度収支差額は△11 億 5,100 万円となり、これに前年度繰越収支差額 1 億 9,800 万円と基本金取崩額 100 万円を加えた翌年度繰越収支差額は△9 億 5,200 万円となった。

（単位:千円）

科　目		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	3,233,725	3,370,866	3,354,585	3,448,955	3,273,855
	手数料	33,625	32,779	32,303	28,363	30,120
	寄付金	93,858	146,359	92,553	82,653	120,946
	経常費等補助金	528,077	569,345	427,211	448,773	466,154
	付随事業収入	513,595	516,128	510,373	500,914	530,367
	医療収入	1,783,549	1,890,607	2,013,107	1,833,901	2,425,577
	雑収入	262,380	214,706	199,100	293,875	244,055
	教育活動収入計	6,448,809	6,740,790	6,629,232	6,637,434	7,091,074
	事業活動支出の部					
	人件費	4,172,390	4,310,131	4,530,894	4,450,366	4,396,192
	教育研究経費	2,154,951	2,311,191	2,247,591	3,542,611	2,945,657
	管理経費	363,146	388,209	403,470	462,660	497,287
	徴収不能額等	1,115	5,622	840	92	4,334
	教育活動支出計	6,691,602	7,015,153	7,182,795	8,455,729	7,843,470
	教育活動収支差額	△ 242,793	△ 274,363	△ 553,563	△ 1,818,295	△ 752,396

科　目		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	803,356	634,307	632,595	591,839	556,376
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	803,356	634,307	632,595	591,839	556,376
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	0	0	12,025	20,087	18,521
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	12,025	20,087	18,521
	教育活動外収支差額	803,356	634,307	620,570	571,752	537,855
経常収支差額		560,563	359,944	67,007	△ 1,246,543	△ 214,541
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	53,021	0	139	1
	その他の特別収入	86,558	196,209	53,728	51,797	74,793
	特別収入計	86,558	249,230	53,728	51,936	74,794
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	91,408	62,779	21,395	408,134	20,055
	その他の特別支出	5,298	253	0	29,596	74
	特別支出計	96,706	63,032	21,395	437,730	20,129
	特別収支差額	△ 10,148	186,198	32,333	△ 385,794	54,665
基本金組入前当年度収支差額		550,415	546,142	99,340	△ 1,632,337	△ 159,876
基本金組入額合計		△ 3,053,983	△ 8,081,564	△ 498,340	△ 84,826	△ 990,967
当年度収支差額		△ 2,503,568	△ 7,535,422	△ 399,000	△ 1,717,163	△ 1,150,843
前年度繰越収支差額		△ 2,182,726	△ 2,288,600	△ 824,022	△ 1,210,245	197,596
基本金取崩額		2,397,694	9,000,000	12,777	3,125,004	670
翌年度繰越収支差額		△ 2,288,600	△ 824,022	△ 1,210,245	197,596	△ 952,577

（参考）

事業活動収入計	7,338,723	7,624,327	7,315,555	7,281,209	7,722,244
事業活動支出計	6,788,308	7,078,185	7,216,215	8,913,546	7,882,120

（２）財務比率の経年比較

比率名	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度
人件費比率	57.5%	58.4%	62.4%	61.6%	57.5%
教育研究経費比率	29.7%	31.3%	31.0%	49.0%	38.5%
管理経費比率	5.0%	5.3%	5.6%	6.4%	6.5%
事業活動収支差額比率	7.5%	7.2%	1.4%	-22.4%	-2.1%
学生生徒等納付金比率	44.6%	45.7%	46.2%	47.7%	42.8%
経常収支差額比率	7.7%	4.9%	0.9%	-17.2%	-2.8%

２．その他

１）有価証券の状況

有価証券の状況は以下のとおりである。

（単位:円）

種　類	当年度（令和4年3月31日）		
	貸借対照表計上額	時　価	差　額
債券	43,307,376,800	44,963,488,000	1,656,111,200
株式	0	0	0
投資信託	0	0	0
貸付信託	0	0	0
その他	0	0	0
合　計	43,307,376,800	44,963,488,000	1,656,111,200
時価のない有価証券	0		
有価証券合計	43,307,376,800		

２）借入金の状況

借入金の状況は以下のとおりである。

（単位:円）

借入先	期末残高	利　率	返済期限
日本私立学校振興・共済事業団	2,625,000,000	0.4100%	令和10年9月15日
西日本シティ銀行	2,719,960,000	0.2400%	令和12年3月31日
西日本シティ銀行	2,300,000,000	0.3000%	令和14年3月31日
合　計	7,644,960,000		

３）学校債の状況

なし

４）寄付金の状況

寄付金の状況は以下のとおりである。

（単位:円）

科　目	金　額
特別寄付金	97,779,584
一般寄付金	311,382
合　計	98,090,966

５）補助金の状況

補助金の状況は以下のとおりである。

（単位:円）

科　目	金　額
私立大学等経常費補助金	301,113,000
研究設備整備費補助金	8,103,000
私立学校施設整備費補助金	40,000,000
大学改革推進等補助金	9,861,000
授業料等減免費補助金	59,025,900
学術研究振興資金	1,500,000
臨床研修費等補助金	37,487,000
県その他補助金	67,027,553
合　計	524,117,453

６）収益事業の状況

なし

７）関連当事者との取引の状況

（１）関連当事者

記載すべき関連当事者との取引はない。

（２）出資会社

なし

８）学校法人間財務取引

なし

３．経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

令和３年度決算における主な収入では、学生生徒等納付金は福岡歯科大学及び福岡医療短期大学の入学定員未充足等による在籍学生数の減により、前年度比 1 億 7,500 万円減の 32 億 7,400 万円となった。補助金は文部科学省から採択を受けた福岡医療短期大学の「マルチメディアを活用した臨床実習に即応するアクティブラーニング実習環境整備費」補助金などにより、前年度比 4,600 万円増の 5 億 2,400 万円、医療収入は医科歯科総合病院及び口腔医療センターの収入増により、前年度比 5 億 9,200 万円増の 24 億 2,600 万円となり、経常収入（教育活動収入・教育活動外収入）は 76 億 4,700 万円となった。一方、主な支出では、教育研究経費は医療収入の増収に伴う経費の増などにより 29 億 4,600 万円となり、経常支出（教育活動支出・教育活動外支出）は 78 億 6,200 万円となった。以上の結果、学校法人の経常的な収支バランス（教育活動収支・教育活動外収支）を示す経常収支差額は△2 億 1,500 万円となった。

主な財務比率では、人件費比率 57.5%、教育研究経費比率 38.5%、管理経費比率 6.5%、経常収支差額比率△2.1%となった。

また、令和３年度の総資産は 684 億 6,700 万円となり、福岡歯科大学校舎建設資金として第 2 号基本金引当特定資産に 80 億円、教育研究の充実を目的として第 3 号基本金引当特定資産に 236 億 2,700 万円、減価償却資産の取替資金として減価償却引当特定資産に 90 億円など各種引当特定資産の積立を行っており、財政基盤の強化を図っている。

今後、収入面では、福岡歯科大学及び福岡医療短期大学における入学定員充足による安定した学生納付金の確保、補助金・寄付金等の外部資金の積極的な導入、医科歯科総合病院・口腔医療センターにおける医療収入の増収など財源の確保に努める。一方、支出面では、人件費については、人事計画に基づく人員配置及び人事考課制度の活用等により適正化を図り、その他の経常的な経費については、予算の効果的な執行及び不要不急の支出の抑制を図る。

本学園は、教育研究環境の向上及び将来的な施設、設備等の更新に伴う財源確保のため、一層の財政状況の改善を図り、永続的な維持・発展に向けて、安定した財政基盤の確立を目指す。

別表１　令和3年度研究業績（欧文）一覧

〔福岡歯科大学〕

1.著書

※ 電子ジャーナルの場合、巻・号・ページは「-」で記載

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
1	Chapter 6 - Role of autophagy in dysregulation of oral mucosal homeostasis.	Yasunaga M, Yamaguchi M, Seno K, Yoshida M, Ohno J	Inflammation and Oral Cancer	-	-	101-125	2022	10.1016/B978-0-323-88526-3.00006-3
2	Chapter 7 - Oral mucosal graft-versus-host disease and its possibility of antitumor effects.	Seno K, Yasunaga M, Yamamoto N, Ohno J	Inflammation and Oral Cancer	-	-	127-150	2022	10.1016/B978-0-323-88526-3.00007-5
3	Chapter 7 - Fabrication of fully artificial carbonate apatite bone substitutes.	Tsuru K, Maruta M, Ishikawa K	Innovative Bioceramics in Translational Medicine II	-	-	127-155	2022	10.1007/978-981-16-7439-6_7

2.総説（review含む）

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
1	Phantom bite syndrome: Revelation from clinically focused review.	Tu TTH, Watanabe M, Nayanar GK, Umezaki Y, Motomura H, Sato Y, Toyofuku A	World Journal of Psychiatry	11	11	1053-1064	2021	10.5498/wjp.v11.i11.1053

3.原著

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
1	Identification and characterization of R2TP in the development of oral squamous cell carcinoma.	Kiguchi T, Kakihara Y, Yamazaki M, Katsura K, Izumi K, Tanuma J, Saku T, Takagi R, Saeki M	Biochemical and Biophysical Research Communications	548	-	161-166	2021	10.1016/j.bbrc.2021.02.074
2	Blockade or deficiency of PD-L1 expression in intestinal allograft accelerates graft tissue injury in mice.	Matsushima H, Nakagawa M, Datta S, Pavicic PG Jr, Hamilton TA, Abu-Elmagd K, Fujiki M, Osman M, D'Amico G, Eguchi S, Hashimoto K	American Journal of Transplantation	22	-	955-965	2022	10.1111/ajt.16873
3	Usefulness of five-parameter system reconfirmed for cytopathology of oral squamous cell carcinoma regardless of differentiation degree.	Hara H, Misawa T, Ishii E, Nakagawa M, Amemiya S, Amemiya K, Oyama T, Saku T	Acta Cytologica	-	-	1-12	2022	10.1159/000521835
4	Comparison of attitudes, awareness, and perceptions regarding oral healthcare between dental and nursing students before and after oral healthcare education.	Haresaku S, Umezaki Y, Egashira R, Naito T, Kubota K, Iino H, Aoki H, Nakashima F	BMC Oral Health	21	1	188	2021	10.1186/s12903-021-01554-8
5	Effect of multi-professional education on the perceptions and awareness of oral health care among undergraduate nursing students in a nursing school.	Haresaku S, Kubota K, Yoshida R, Aoki H, Nakashima F, Iino H, Uchida S, Miyazono M, Naito T	Journal of Dental Education	85	6	786-793	2021	10.1002/jdd.12558
6	Clinical characteristics of predominantly unilateral oral cenesthopathy with and without neurovascular contact.	Watanabe K, Watanabe M, Takao C, Hong C, Liu Z, Suga T, Tu TTH, Sakamoto J, Umezaki Y, Yoshikawa T, Takenoshita M, Uezato A, Motomura H, Kurabayashi T, Abiko Y, Toyofuku A	Frontiers in Neurology	12	-	744561	2021	10.3389/fneur.2021.744561
7	Changes in oral and cognitive functions among older Japanese dental outpatients: A 2-year follow-up study.	Mizutani S, Egashira R, Yamaguchi M, Tamai K, Yoshida M, Kato T, Umezaki Y, Aoki H, Naito T	Journal of Oral Rehabilitation	48	10	1150-1159	2021	10.1111/joor.13224
8	Tooth brushing, tooth loss, and risk of upper aerodigestive tract cancer: a cohort study of Japanese dentisits.	Tsukamoto M, Naito M, Wakai K, Naito T, Kojima M, Umemura O, Yokota M, Hanada N, Kawamura T	Nagoya Journal of Medical Science	83	2	331-341	2021	10.18999/nagjms.83.2.331
9	Nurses' perceptions of oral health care provision after the COVID-19 lockdown.	Haresaku S, Aoki H, Kubota K, Nakashima F, Uchida S, Jinnouchi A, Naito T	International Dental Journal	-	-	-	2021	10.1016/j.identj.2021.06.004
10	Effects of S-PRG eluate on bacterial activity related to periodontitis and malodor.	Omagari S	The Journal of Fukuoka Dental College	47	2	41-51	2021	-
11	Inhibitory mechanisms of S-PRG eluate and S-PRG filler against volatilization of hydrogen sulfide.	Omagari S, Taniguchi N, Yokogawa Y, Yoneda M, Yamamoto S, Hanioka T, Hirofuji T	Operative Dentistry, Endodontology and Periodontology	1	1	30-36	2021	10.11471/odep.2021-004

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
12	Sphingosine-1-phosphate receptor 2 agonist induces bone formation in rat apicoectomy and alveolar bone defect model.	Matsuzaki E, Hirose H, Fujimasa S, Yoshimoto S, Yanagi T, Matsumoto K, Nikaido M, Minakami M, Matsumoto N, Anan H	Journal of Dental Sciences	-	-	-	2021	10.1016/j.jds.2021.10.004
13	Effects of root-end filling materials on vascular endothelial cell proliferation and tube formation.	Matsuzaki E, Hirose H, Matsumoto K, Matsumoto N, Fujimasa S, Hatakeyama J, Anan H	Journal of Dental Sciences	-	-	-	2021	10.1016/j.jds.2021.12.006
14	Contact angle and cell adhesion of micro/nano-structured poly (lactic-co-glycolic acid) membranes for dental regenerative therapy.	Kaga N, Fujimoto H, Morita S, Yamaguchi Y, Matsuura T	Dentistry Journal	9	11	124	2021	10.3390/dj9110124
15	Space-making effect for new bone formation by suppressing scar contraction of mucosal epithelium of rat tooth extraction wound using diode laser and CO2 laser treatment.	Taniguchi Y, Matsuzaki E, Daigo Y, Tsutsumi T, Fukuoka H, Kakura K, Egashira K, Takahashi K, Kido H	Journal of Dental Sciences	-	-	-	2021	10.1016/j.jds.2021.11.004
16	The effect of AMP kinase activation on differentiation and maturation of osteoblast cultured on titanium plate.	Vansana P, Kakura K, Taniguchi Y, Egashira K, Matsuzaki E, Tsutsumi T, Kido H	Journal of Dental Sciences	-	-	-	2021	10.1016/j.jds.2021.12.003
17	Occlusal disharmony transiently decrease cognition via cognitive suppressor molecules and partially restores cognitive ability via clearance molecules.	Maeshiba M, Kajiya H, Tsutsumi T, Migita K, Goto K, Kono Y, Tsuzuki T, Ohno J	Biochemical and Biophysical Research Communications	594	-	74-80	2022	10.1016/j.bbrc.2022.01.048
18	Three-dimensional spheroids of dedifferentiated fat cells enhance bone regeneration.	Yanagi T, Kajiya H, Fujisaki S, Maeshiba M, Yanagi A, Yamamoto N, Kakura K, Kido H, Ohno J	Regenerative Therapy	18	-	472-479	2021	10.1016/j.reth.2021.10.004
19	Enhancement of jaw bone regeneration via ERK1/2 activation using dedifferentiated fat cells.	Fujisaki S, Kajiya H, Yanagi T, Maeshiba M, Kakura K, Kido H, Ohno J	Cytotherapy	23	7	608-616	2021	10.1016/j.jcyt.2021.02.115
20	Effects of ytterbium laser surface treatment on the bonding of two resin cements to zirconia.	Toyoda K, Taniguchi Y, Nakamura K, Isshi K, Kakura K, Ikeda H, Shimizu H, Kido H, Kawaguchi T	Dental Materials Journal	41	1	45-53	2022	10.4012/dmj.2021-036
21	Application of a new scan body for face-driven fixed prosthetics.	Otawa N, Aoki T, Sumida T, Yanagi T, Kido H	Clinical and experimental dental research	8	1	275-281	2022	10.1002/cre2.483
22	SNAI2 is induced by transforming growth factor-β 1, but is not essential for epithelial-mesenchymal transition in human keratinocyte HaCaT cells.	Miyake Y, Nagaoka Y, Okamura K, Takeishi Y, Tamaoki S, Hatta M	Experimental and Therapeutic Medicine	22	4	1124	2021	10.3892/etm.2021.10558
23	Immunohistochemical study of 78kDa glucose-regulated protein (Grp78) and cripto in the spheno-occipital synchondrosis.	Niidome Y, Hatakeyama J, Takezaki M, Yoneda M, Hatakeyama Y, Tamaoki S	American Journal of BioSicence	10	1	31-34	2022	10.11648/j.ajbio.20221001.15
24	Cisplatin-induced sonic hedgehog signaling mediates epithelial-mesenchymal transition in hertwig's epithelial root sheath cells.	Ishii H, Yosida M, Kajiya H, Matsuo S, Toda M, Mori N, Fujisaki S, Oka K, Ozaki M, Ohno J	Journal of Hard Tissue Biology	30	2	115-122	2021	10.2485/jhtb.30.115
25	Verification of antibacterial activity to enamel surfaces of new type of surface coating.	Kumagai T, Kashiwamura H, Katsumata M, Ozaki M	Pediatric Dental Journal	31	1	86-91	2021	10.1016/j.pdj.2021.01.005
26	Overexpression of SGLT2 in the kidney of a P. gingivalis LPS-induced diabetic nephropathy mouse model.	Kajiwara K, Sawa Y	BMC Nephrology	22	1	1-10	2021	10.1186/s12882-021-02506-8
27	Inhibition of retinoid X receptor improved the morphology, localization of desmosomal proteins, and paracellular permeability in three-dimensional cultures of mouse keratinocytes.	Ishikawa S, Nikaido M, Otani T, Ogata K, Iida H, Inai Y, Tamaoki S, Inai T	Microscopy	-	-	-	2022	10.1093/jmicro/dfac007
28	Re-evaluating the clinical significance of serum p53 antibody levels in patients with oral cancer in Japanese clinical practice.	Gohara S, Yoshida R, Kawahara K, Sakata J, Arita H, Nakashima H, Kawaguchi S, Nagao Y, Yamana K, Nagata M, Hirosue A, Hiraki A, Nakayama H	Molecular and Clinical Oncology	15	4	209	2021	10.3892/mco.2021.2372
29	Statistical analysis of mid-face correction treatment using automated image analysis.	Moriyama T, Izumi K, Miyahara K, Kajiwara K, Sato M	2021 IEEE 10th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE)	-	-	604-605	2021	10.1109/GCCE53005.2021.9621838
30	The methods and use of questionnaires for the diagnosis of dental phobia by Japanese dental practitioners specializing in special needs dentistry and dental anesthesiology: a cross-sectional study.	Ogawa M, Ayuse T, Fujisawa T, Sato S, Ayuse T	BMC Oral Health	22	1	38	2022	10.1186/s12903-022-02071-y

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
31	Non-invasive fibrosis assessments of non-alcoholic fatty liver disease associated with low estimated glomerular filtration rate among CKD patients: The Fukuoka kidney disease registry study.	Hara M, Tanaka S, Torisu K, Matsukuma Y, Tsuchimoto A, Tokumoto M, Ooboshi H, Nakano T, Tsuruya K, Kitazono T	Clinical and Experimental Nephrology	25	8	822-834	2021	10.1007/s10157-020-02018-z
32	Clinical and electrophysiological features of acute flaccid myelitis: A national cohort study.	Chong PF, Torisu H, Yasumoto S, Okumura A, Mori H, Sato T, Kimura J, Ohga S, Tanaka-Taya K, Kira R	Clinical Neurophysiology	132	10	2456-2463	2021	10.1016/j.clinph.2021.07.013
33	A nation-wide survey of Japanese pediatric MOG antibody-associated diseases.	Azumagawa K, Nakashima I, Kaneko K, Torisu H, Sakai Y, Kira R, Sakuma H, Tanaka K, Shigeri Y, Tanaka Y, Nakajima H, Shimakawa S, Tamai H	Brain and Development	43	6	705-713	2021	10.1016/j.braindev.2021.01.008
34	Favorable outcomes of interferon-α and ribavirin treatment for a male with subacute sclerosing panencephalitis.	Sonoda Y, Sonoda M, Yonemoto K, Sanefuji M, Taira R, Motomura Y, Ishimura M, Torisu H, Kira R, Kusuhara K, Sakai Y, Ohga S	Journal of Neuroimmunology	358	-	577656	2021	10.1016/j.jneuroim.2021.577656
35	Concurrent cardiac transthyretin and brain β amyloid accumulation among the older adults: The Hisayama study.	Hamasaki H, Shijo M, Nakamura A, Honda H, Yamada Y, Oda Y, Ohara T, Ninomiya T, Iwaki T	Brain Pathology	32	1	e13014	2022	10.1111/bpa.13014
36	Progression of age-related macular degeneration in eyes with abnormal fundus autofluorescence in a Japanese population: JFAM study report 3.	Oshima Y, Shinojima A, Sawa M, Mori R, Sekiryu T, Kato A, Hara C, Saito M, Sugano Y, Hirano Y, Asato H, Nakamura M, Kimura E, Yuzawa M, Ishibashi T, Ogura Y, Iida T, Gomi F, Yasukawa T	PLoS One	17	2	e0264703	2022	10.1371/journal.pone.0264703
37	Impact of multivascular disease on cardiovascular mortality and morbidity in patients receiving hemodialysis: Ten-year outcomes of the Q-cohort study.	Tanaka S, Nakano T, Hiyamuta H, Taniguchi M, Tokumoto M, Masutani K, Ooboshi H, Tsuruya K, Kitazono T	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis	28	4	385-395	2021	10.5551/jat.54098
38	Day-by-day blood pressure variability in the subacute stage of ischemic stroke and long-term recurrence.	Fukuda K, Matsuo R, Kamouchi M, Kiyuna F, Sato N, Nakamura K, Hata J, Wakisaka Y, Ago T, Imaizumi T, Kai H, Kitazono T, FSR Investigators, Ooboshi H	Stroke	53	1	70-78	2022	10.1161/STROKEAHA.120.033751
39	Incidence of end-stage renal disease and risk factors for progression of renal dysfunction in Japanese patients with type 2 diabetes: The Fukuoka diabetes registry.	Iwase M, Ide H, Ohkuma T, Fujii H, Komorita Y, Yoshinari M, Oku Y, Higashi T, Nakamura U, Kitazono T	Clinical and Experimental Nephrology	26	2	122-131	2022	10.1007/s10157-021-02136-2
40	Polypharmacy and bone fracture risk in patients with type 2 diabetes: The Fukuoka diabetes registry.	Komorita Y, Ohkuma T, Iwase M, Fujii H, Oku Y, Higashi T, Oshiro A, Sakamoto W, Yoshinari M, Nakamura U, Kitazono T	Diabetes Research and Clinical Practice	181	-	109097	2021	10.1016/j.diabres.2021.109097
41	Relationship of coffee consumption with a decline in kidney function among patients with type 2 diabetes: The Fukuoka diabetes registry.	Komorita Y, Ohkuma T, Iwase M, Fujii H, Ide H, Oku Y, Higashi T, Oshiro A, Sakamoto W, Yoshinari M, Nakamura U, Kitazono T	Journal of Diabetes Investigation	-	-	1-9	2022	10.1111/jdi.13769
42	Constipation and diabetic kidney disease: The Fukuoka diabetes registry.	Ohkuma T, Iwase M, Fujii H, Ide H, Komorita Y, Yoshinari M, Oku Y, Higashi T, Oshiro A, Nakamura U, Kitazono T	Clinical and Experimental Nephrology	25	11	1247-1254	2021	10.1007/s10157-021-02105-9
43	Associations between surrogates of skeletal muscle mass and history of bone fracture in patients with chronic kidney disease: The Fukuoka kidney disease registry (FKR) study.	Yamada S, Tanaka S, Arase H, Hiyamuta H, Yoshizumi E, Tokumoto M, Nakano T, Tsuruya K, Kitazono T	Calcified Tissue International	109	4	393-404	2021	10.1007/s00223-021-00851-2
44	Association of the nutritional risk index for Japanese hemodialysis patients with long-term mortality: The Q-cohort study.	Shimamoto S, Yamada S, Hiyamuta H, Arase H, Taniguchi M, Tsuruya K, Nakano T, Kitazono T	Clinical and Experimental Nephrology	26	1	59-67	2022	10.1007/s10157-021-02124-6
45	Protective roles of xenotropic and polytropic retrovirus receptor 1 (XPR1) in uremic vascular calcification.	Arase H, Yamada S, Torisu K, Tokumoto M, Taniguchi M, Tsuruya K, Nakano T, Kitazono T	Calcified Tissue International	-	-	-	2022	10.1007/s00223-022-00947-3
46	Comparison of the predictability of serum creatinine-based surrogates of skeletal muscle mass for all-cause mortality in patients receiving hemodialysis: creatinine generation rate and creatinine index.	Yamada S, Arase H, Taniguchi M, Kitazono T, Nakano T	Clinical and Experimental Nephrology	-	-	-	2022	10.1007/s10157-021-02175-9
47	Development of a remote examination of deglutition based on consensus surveys of clinicians (Part I): Selection of examination items.	Omori F, Kurachi M, Iiboshi K, Yamano T	Dysphagia	-	-	1-12	2021	10.1007/s00455-021-10357-6

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
48	Epipharyngeal abrasive therapy down-regulates the expression of SARS-CoV-2 entry factors ACE2 and TMPRSS2.	Nishi K, Yoshimoto S, Nishi S, Tsunoda T, Ohno J, Yoshimura M, Hiromatsu K, Yamano T	In Vivo	36	1	371-374	2022	10.21873/invivo.12712
49	A cantilever all-ceramic resin-bonded fixed dental prosthesis using digital technology for a patient with cleft lip and palate.	Takaesu Y, Taniguchi Y, Kaga N, Isshi K, Kido H, Matsuura T, Sato H	Asian Pacific Journal of Dentistry	21	1	7-10	2021	10.47416/apjod.21-0279
50	Job satisfaction and perceived importance of oral medicine among dentists.	Naito M, Suzuki N, Shimazu A, Yatabe N, Takaesu Y, Watanabe T, Hanioka T	International Dental Journal	-	-	-	2021	10.1016/j.identj.2021.06.001
51	The effects of cigarette smoking on the salivary and tongue microbiome.	Suzuki N, Nakano Y, Yoneda M, Hirofuji T, Hanioka T	Clinical and Experimental Dental Research	-	-	-	2021	10.1002/cre2.489
52	Infinite-dimensional stochastic differential equations and tail σ-fields II: The IFC condition.	Kawamoto Y, Osada H, Tanemura H	Journal of the Mathematical Society of Japan	74	1	79–128	2022	10.2969/jmsj/85118511
53	Interacting Brownian motions in infinite dimensions related to the origin of the spectrum of random matrices.	Kawamoto Y	Modern Stochastics: Theory and Applications	-	-	-	2022	10.15559/21-VMSTA193
54	Direct evidence of edge-to-face CH/π interaction for PAR-1 thrombin receptor activation.	Asai D, Inoue N, Sugiyama M, Fujita T, Matsuyama Y, Liu X, Matsushima A, Nose T, Costa T, Shimohigashi Y	Bioorganic & Medicinal Chemistry	51	-	116498	2021	10.1016/j.bmc.2021.116498
55	Spontaneous excitatory transmission enhancement produced by linalool and its isomer geraniol in rat spinal substantia gelatinosa neurons - involvement of transient receptor potential channels.	Wang C, Fujita T, Yasuda H, Kumamoto E	Phytomedicine Plus	2	1	100155	2022	10.1016/j.phyplu.2021.100155
56	Fibronectin adsorption on carbonate-containing hydroxyapatite.	Wang Y, Tsuru K, Ishikawa K, Yokoi T, Kawashita M	Ceramics International	47	8	11769-11776	2021	10.1016/j.ceramint.2021.01.017
57	In vitro investigation of the cell compatibility and antibacterial properties of titanium treated with calcium and ozone.	Takechi M, Takamoto M, Ninomiya Y, Ono S, Mizuta K, Nakagawa T, Shigeishi H, Ohta K, Ishikawa K, Tsuru K	Dental Materials Journal	40	3	712-718	2021	10.4012/dmj.2020-224
58	Impact of surface functionalization with phosphate and calcium on the biological performance of Ti-6Al-4V.	Sunarso, Tsuchiya A, Toita R, Tsuru K, Ishikawa K	Materials Letters	304	-	130716	2021	10.1016/j.matlet.2021.130716
59	Hepatic glycogenolysis is determined by maternal high-calorie diet via methylation of Pygl and it is modified by osteocalcin administration in mice.	Kawakubo-Yasukochi T, Yano E, Kimura S, Nishinakagawa T, Mizokami A, Hayashi Y, Hatakeyama Y, Ohe K, Yasukochi A, Nakamura S, Jimi E, Hirata M	Molecular Metabolism	54	-	101360	2021	10.1016/j.molmet.2021.101360
60	Antimicrobial peptide nisin induces spherical distribution of macropinocytosis-like cytokeratin 5 and cytokeratin 17 following immediate derangement of the cell membrane.	Kitagawa N	Anatomy & Cell Biology	-	-	-	2021	10.5115/acb.21.168
61	Effects of calyculin a on the motility and protein phosphorylation in frozen-thawed bull spermatozoa.	Ogata H, Tsukamoto M, Yamashita K, Iwamori T, Takahashi H, Kaneko T, Iwamori N, Inai T, Iida H	Zoological Science	38	6	531-543	2021	10.2108/zs210046
62	αTAT1-induced tubulin acetylation promotes ameloblastoma migration and invasion.	Yoshimoto S, Morita H, Okamura K, Hiraki A, Hashimoto S	Laboratory Investigation	102	1	80-89	2022	10.1038/s41374-021-00671-w
63	Ephedrae herba and cinnamomi cortex interactions with G glycoprotein inhibit respiratory syncytial virus infectivity.	Fujikane A, Sakamoto A, Fujikane R, Nishi A, Ishino Y, Hiromatsu K, Nabeshima S	Communications Biology	5	-	94	2022	10.1038/s42003-022-03046-z
64	DNA polymerase delta Exo domain stabilizes mononucleotide microsatellites in human cells.	Shioi S, Shimamoto A, Song Y, Hidaka K, Nakamura M, Take A, Hayashi Y, Takiguchi S, Fujikane R, Hidaka M, Oda S, Nakatsu Y	DNA Repair	108	-	103216	2021	10.1016/j.dnarep.2021.103216
65	Bond durability and surface states of titanium, Ti-6Al-4V alloy, and zirconia for implant materials.	Nakamura K, Kawaguchi T, Ikeda H, Karntiang P, Kakura K, Taniguchi Y, Toyoda K, Shimizu H, Kido H	Journal of Prosthodontic Research	-	-	-	2021	10.2186/jpr.JPR_D_20_00297
66	Expression of PRIP, a phosphatidylinositol 4,5-bisphosphate binding protein, attenuates PI3K/AKT signaling and suppresses tumor growth in a xenograft mouse model.	Maetani Y, Asano S, Mizokami A, Yamawaki Y, Sano T, Hirata M, Irifune M, Kanematsu T	Biochemical and Biophysical Research Communications	552	-	106-113	2021	10.1016/j.bbrc.2021.03.045
67	Osteocalcin promotes proliferation, differentiation, and survival of PC12 cells.	Ando E, Higashi S, Mizokami A, Watanabe S, Hirata M, Takeuchi H	Biochemical and Biophysical Research Communications	557	-	174-179	2021	10.1016/j.bbrc.2021.03.146

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
68	Phospholipase C-related but catalytically inactive protein acts as a positive regulator of insulin signalling in adipocytes.	Gao J, Mizokami A, Takeuchi H, Li A, Huang F, Nagano H, Kanematsu T, Jimi E, Hirata M	Journal of Cell Science	135	1	jcs258584	2022	10.1242/jcs.258584

4.症例報告

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
1	Surgical endodontic treatment for odontogenic maxillary sinusitis caused by radicular cyst of maxillary anterior teeth: A case report.	Matsuzaki E, Matsumoto K, Taniguchi Y, Anan H	Journal of Dental Sciences	-	-	-	2022	10.1016/j.jds.2021.12.020
2	Design of palatal and lingual augmentation prostheses by using an intraoral scanner for a patient after a glossectomy: A clinical report.	Yoshida S, Yamaguchi K, Taniguchi Y, Isshi K, Kido H, Tohara H	Journal of Prosthetic Dentistry	-	-	-	2022	10.1016/j.prosdent.2021.12.028
3	A case of peritoneal dialysis-related peritonitis caused by dialysate leakage with successful treatment by intravenous and intraperitoneal antibiotic therapy.	Ueki K, Tsuchimoto A, Torisu K, Fujisaki K, Tachibana S, Tomita K, Nakano T, Tsuruya K, Kitazono T	CEN Case Reports	-	-	-	2021	10.1007/s13730-021-00644-4

5.レポート

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
1	The similarities and differences between oral cenesthopathy and burning mouth syndrome in the elderly.	Umezaki Y, Motomura H, Uezato A, Naito T, Toyofuku A	Gerodontology	38	3	321-322	2021	10.1111/ger.12564

〔福岡看護大学〕

1.原著

※ 電子ジャーナルの場合、巻・号・ページは「-」で記載

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
1	Comparison of attitudes, awareness, and perceptions regarding oral healthcare between dental and nursing students before and after oral healthcare education.	Haresaku S, Umezaki Y, Egashira R, Naito T, Kubota K, Iino H, Aoki H, Nakashima F	BMC Oral Health	21	1	188	2021	10.1186/s12903-021-01554-8
2	Effect of multi-professional education on the perceptions and awareness of oral health care among undergraduate nursing students in a nursing school.	Haresaku S, Kubota K, Yoshida R, Aoki H, Nakashima F, Iino H, Uchida S, Miyazono M, Naito T	Journal of Dental Education	85	6	786-793	2021	10.1002/jdd.12558
3	Developing a questionnaire on the quality of working life for female medical and healthcare professionals.	Taketomi K, Ito Y, Tokunaga E, Hirano Y, Fujino Y, Chishaki A	Industrial Health	59	6	371-382	2021	10.2486/indhealth.2020-0257
4	Prevalence and mortality of sarcopenia in a community-dwelling older Japanese population: The Hisayama study.	Nakamura K, Yoshida D, Honda T, Hata J, Shibata M, Hirakawa Y, Furuta Y, Kishimoto H, Ohara T, Kitazono T, Nakashima Y	Journal of Epidemiology	31	5	320-327	2021	10.2188/jea.JE20190289
5	Current status of the certification of long-term care insurance among individuals with dementia in a Japanese community: The Hisayama study.	Ohara T, Yoshida D, Hata J, Shibata M, Honda T, Furuta Y, Hirabayashi N, Kitazono T, Hakao T, Ninomiya T	Psychiatry and Clinical Neurosciences	75	5	182-184	2021	10.1111/pcn.13204
6	Changes in oral and cognitive functions among older Japanese dental outpatients: A 2-year follow-up study.	Mizutani S, Egashira R, Yamaguchi M, Tamai K, Yoshida M, Kato T, Umezaki Y, Aoki H, Naito T	Journal of Oral Rehabilitation	48	10	1150-1159	2021	10.1111/joor.13224
7	Nurses' perceptions of oral health care provision after the COVID-19 lockdown.	Haresaku S, Aoki H, Kubota K, Nakashima F, Uchida S, Jinnouchi A, Naito T	International Dental Journal	-	-	-	2021	10.1016/j.identj.2021.06.004
8	Actual situation of primipara's sleep acquired by the mobile sleep diary for one month after giving birth in Japan: Contributions to sustainable parenting.	Fujioka N, Hata C, Tsuda A	Cross-cultural Perspectives on Well-Being and Sustainability in Organizations	-	-	165-181	2022	10.1007/978-3-030-86709-6_1
9	The clinical characteristics of pediatric coronavirus disease 2019 in 2020 in Japan.	Katsuta T, Shimizu N, Okada K, Tanaka-Taya K, Nakano T, Kamiya H, Amo K, Ishiwada N, Iwata S, Oshiro M, Okabe N, Kira R, Korematsu S, Suga S, Tsugawa T, Nishimura N, Hishiki H, Fujioka M, Hosoya M, Mizuno Y, Mine M, Miyairi I, Miyazaki C, Morioka I, Morishima T, Yoshikawa T, Wada T, Azuma H, Kusuhara K, Ouchi K, Saitoh A, Moriuchi H	Pediatrics International	64	1	-	2022	10.1111/ped.14912
10	Breastfeeding and postpartum outcomes among women with congenital heart disease.	Matsuzaka T, Kamiya CA, Konishi TY, Shionoiri T, Nakanishi A, Iwanaga N, Chishaki A, Kurosaki K, Ohuchi H, Yoshimatsu J	International Journal of Cardiology Congenital Heart Disease	4	-	100167	2021	10.1016/j.ijcchd.2021.100167
11	Location and coupling interval of an ectopic excitation determine the initiation of atrial fibrillation from the pulmonary veins.	Kawai S, Mukai Y, Inoue S, Yakabe D, Nagaoka K, Sakamoto K, Takase S, Chishaki A	Journal of Cardiovascular Electrophysiology	-	-	1-9	2022	10.1111/jce.15371

〔福岡医療短期大学〕

1.著書

※ 電子ジャーナルの場合、巻・号・ページは「-」で記載

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
1	Tumors of the head and neck	Kawakubo N, Taguchi T	Pediatric Surgical Oncology	-	-	91-96	2022	-
2	Testicular tumors	Kinoshita Y, Taguchi T	Pediatric Surgical Oncology	-	-	240-242	2022	-
3	Navigational techniques in pediatric surgical oncology.	Souzaki R, Taguchi T	Pediatric Surgical Oncology	-	-	439-445	2022	10.1201/9781351166126-43

2.原著

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
1	Occlusal disharmony transiently decrease cognition via cognitive suppressor molecules and partially restores cognitive ability via clearance molecules.	Maeshiba M, Kajiya H, Tsutsumi T, Migita K, Goto K, Kono Y, Tsuzuki T, Ohno J	Biochemical and Biophysical Research Communications	594	-	74-80	2022	10.1016/j.bbrc.2022.01.048
2	Cold stimuli on the cheeks activate the left ventrolateral prefrontal cortex and enhance cognitive performance.	Okura Y, Rikimaru T	Journal of Cognitive Enhancement	5	2	164-175	2021	10.1007/s41465-020-00192-2
3	Statistical analysis of mid-face correction treatment using automated image analysis.	Moriyama T, Izumi K, Miyahara K, Kajiwara K, Sato M	2021 IEEE 10th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE)	-	-	604-605	2021	10.1109/GCCE53005.2021.9621838
4	Thoracoscopic repair of congenital diaphragmatic hernia in neonates: Findings of a multicenter study in Japan.	Okawada M, Ohfuji S, Yamoto M, Urushihara N, Terui K, Nagata K, Taguchi T, Hayakawa M, Amari S, Masumoto K, Okazaki T, Inamura N, Toyoshima K, Inoue M, Furukawa T, Yokoi A, Kanamori Y, Usui N, Tazuke Y, Saka R, Okuyama H, Japanese Congenital Diaphragmatic Hernia Study Group	Surgery Today	51	10	1694-1702	2021	10.1007/s00595-021-02278-6
5	The forkhead box M1 (FOXM1) expression and antitumor effect of FOXM1 inhibition in malignant rhabdoid tumor.	Shibui Y, Kohashi K, Tamaki A, Kinoshita I, Yamada Y, Yamamoto H, Taguchi T, Oda Y	Journal of Cancer Research and Clinical Oncology	147	5	1499-1518	2021	10.1007/s00432-020-03438-w
6	Frequent breakpoints of focal deletion and uniparental disomy in 22q11.1 or 11.2 segmental duplication region reveal distinct tumorigenesis in rhabdoid tumor of the kidney.	Haruta M, Arai Y, Okita H, Tanaka Y, Takimoto T, Kamijo T, Oue T, Souzaki R, Taguchi T, Kuwahara Y, Chin M, Nakadate H, Hiyama E, Ishida Y, Koshinaga T, Kaneko Y	Genes, Chromosomes & Cancer	60	8	546-558	2021	10.1002/gcc.22952
7	Laparoscopic approach for abdominal neuroblastoma in Japan: Results from nationwide multicenter survey.	Kawano T, Souzaki R, Sumida W, Ishimaru T, Fujishiro J, Hishiki T, Kinoshita Y, Kawashima H, Uchida H, Tajiri T, Yoneda A, Oue T, Kuroda T, Koshinaga T, Hiyama E, Nio M, Inomata Y, Taguchi T, Ieiri S	Surgical Endoscopy	-	-	-	2021	10.1007/s00464-021-08599-4
8	Anatomical patterns of biliary atresia including hepatic radicles at the porta hepatis influence short- and long-term prognoses.	Sasaki H, Nio M, Ando H, Kitagawa H, Kubota M, Suzuki T, Taguchi T, Hashimoto T	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences	28	11	931-941	2021	10.1002/jhbp.989
9	Reevaluation of concurrent acetylcholinesterase and hematoxylin and eosin staining for Hirschsprung's disease.	Yoshimaru K, Matsuura T, Yanagi Y, Obata S, Takahashi Y, Kajihara K, Ohmori A, Irie K, Hino Y, Shibui Y, Tamaki A, Kohashi K, Oda Y, Taguchi T	Pediatrics International	63	9	1095-1102	2021	10.1111/ped.14596
10	Survival outcomes of very low birth weight infants with trisomy 18.	Inoue H, Matsunaga Y, Sawano T, Fujiyoshi J, Kinjo T, Ochiai M, Nagata K, Matsuura T, Taguchi T, Ohga S	American Journal of Medical Genetics. Part A	185	11	3459-3465	2021	10.1002/ajmg.a.62466
11	Current thoracoscopic approach for mediastinal neuroblastoma in Japan-results from nationwide multicenter survey.	Kawano T, Souzaki R, Sumida W, Shimojima N, Hishiki T, Kinoshita Y, Uchida H, Tajiri T, Yoneda A, Oue T, Kuroda T, Hirobe S, Koshinaga T, Hiyama E, Nio M, Inomata Y, Taguchi T, Ieiri S	Pediatric Surgery International	37	12	1651-1658	2021	10.1007/s00383-021-04998-9

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
12	Current status of intractable pediatric gastroesophageal reflux disease in Japan: A nationwide survey.	Fukahori S, Yagi M, Kawahara H, Masui D, Hashizume N, Taguchi T	Surgery Today	-	-	-	2022	10.1007/s00595-021-02444-w
13	Biliary atresia-specific deciduous pulp stem cells feature biliary deficiency.	Sonoda S, Yoshimaru K, Yamaza H, Yuniartha R, Matsuura T, Tomoda E, Murata S, Nishida K, Oda Y, Taguchi T, Ohga S, Tajiri T, Yamaza T	Stem Cell Research & Therapy	12	1	582	2021	10.1186/s13287-021-02652-8
14	Phase I study of tamibarotene monotherapy in pediatric and young adult patients with recurrent/refractory solid tumors.	Nitani C, Hara J, Kawamoto H, Taguchi T, Kimura T, Yoshimura K, Hamada A, Kitano S, Hattori N, Ushijima T, Ono H, Nakamoto M, Higuchi T, Sato A	Cancer Chemotherapy and Pharmacology	88	1	99-107	2021	10.1007/s00280-021-04271-9

3.症例報告

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
1	Surgical extirpation of a huge desmoid fibromatosis of the right buttock: Case report of a successful international collaboration.	Yoshimaru K, Taguchi T, Fujiyoshi T, Kono T, Thin Aung NN, Mya Thanda Than, Yin Mar Oo, Thandar Oo, Kakazu M, Miyazaki K, Shibui Y, Takahashi Y, Kohashi K, Shwe EE, Tsuchihashi K, Endo M, Matsuura T, Oda Y, Aye A, Yoshioka H, Yoshioka H	SN Comprehensive Clinical Medicine	3	-	1746-1751	2021	10.1007/s42399-021-00860-0
2	Mediastinal emphysema induced by minor intraoral toothbrush injury.	Yoshimaru K, Kaku N, Taku K, Maki J, Taguchi T	Pediatrics International	63	4	488-489	2021	10.1111/ped.14528
3	Successful management to prevent early graft loss due to Seventh-day Syndrome after liver retransplantation: A case report and literature review.	Matsuura T, kohashi K, Kawano Y, Takahashi Y, Yoshimaru K, Yoshizumi T, Oda Y, Mori M, Taguchi T	Pediatric Transplantation	25	5	e13907	2021	10.1111/petr.13907
4	Rex shunt for portal vein thrombosis after pediatric living donor liver transplantation.	Soejima Y, Taguchi T, Matsuura T, Hayashida M, Ikegami T, Yoshizumi T, Maehara Y	Annals of Transplantation	26	-	e909493	2021	10.12659/AOT.909493

別表２　令和３年度 科学研究費助成事業決定状況

【福岡歯科大学】

（単位：千円）

区分 / 種目			令和２年度						令和３年度						前年度比較増減(R3-R2)					
			申請件数	申請額	内定件数	内定額			申請件数	申請額	内定件数	内定額			申請件数	申請額	内定件数	内定額		
						直接経費	間接経費	計				直接経費	間接経費	計				直接経費	間接経費	計
文部科学省	新学術領域研究	新　規	1	4,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-1	-4,000	0	0	0	0
		継　続	1	2,900	1	2,900	870	3,770	0	0	0	0	0	0	-1	-2,900	-1	-2,900	-870	0
	小　計	新　規	1	4,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-1	-4,000	0	0	0	0
		継　続	1	2,900	1	2,900	870	3,770	0	0	0	0	0	0	-1	-2,900	-1	-2,900	-870	-3,770
		文科省合計	2	6,900	1	2,900	870	3,770	0	0	0	0	0	0	-2	-6,900	-1	-2,900	-870	-3,770
日本学術振興会	基盤研究(S)	新　規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継　続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	基盤研究(A)	新　規	1	21,150	1	15,700	4,710	20,410	0	0	0	0	0	0	-1	-21,150	-1	-15,700	-4,710	-20,410
		継　続	0	0	0	0	0	0	1	9,600	1	9,600	2,880	12,480	1	9,600	1	9,600	2,880	12,480
	基盤研究(B)	新　規	7	50,039	1	3,600	1,080	4,680	6	50,469	0	0	0	0	-1	430	-1	-3,600	-1,080	-4,680
		継　続	3	10,200	3	10,200	3,060	13,260	2	8,100	2	8,100	2,430	10,530	-1	-2,100	-1	-2,100	-630	-2,730
	基盤研究(C)	新　規	69	131,503	14	19,300	5,790	25,090	68	131,759	16	20,200	6,060	26,260	-1	256	2	900	270	1,170
		継　続	23	22,800	23	22,800	6,840	29,640	23	20,200	23	20,250	6,075	26,325	0	-2,600	0	-2,550	-765	-3,315
	挑戦的研究（開拓）	新　規	0	0	0	0	0	0	1	4,300	0	0	0	0	1	4,300	0	0	0	0
		継　続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	挑戦的研究（萌芽）	新　規	8	21,223	0	0	0	0	6	13,393	0	0	0	0	-2	-7,830	0	0	0	0
		継　続	1	1,000	1	1,000	300	1,300	0	0	0	0	0	0	-1	-1,000	-1	-1,000	-300	-1,300
	若手研究	新　規	44	82,751	16	20,900	6,270	27,170	35	69,957	6	9,300	2,790	12,090	-9	-12,794	-10	-11,600	-3,480	-15,080
		継　続	14	15,100	14	15,100	4,530	19,630	22	22,700	22	22,700	6,810	29,510	8	7,600	8	7,600	2,280	9,880
	研究活動スタート支援	新　規	13	18,624	5	5,300	1,590	6,890	14	18,238	2	2,400	720	3,120	1	-386	-3	-2,900	-870	-3,770
		継　続	2	2,200	2	2,200	660	2,860	5	5,300	5	5,300	1,590	6,890	3	3,100	3	3,100	930	4,030
	小　計	新　規	142	325,290	37	64,800	19,440	84,240	130	288,116	24	31,900	9,570	41,470	-12	-37,174	-13	-32,900	-9,870	-42,770
		継　続	43	51,300	43	51,300	15,390	66,690	53	65,900	53	65,950	19,785	85,735	10	14,600	10	14,650	4,395	19,045
		学振合計	185	376,590	80	116,100	34,830	150,930	183	354,016	77	97,850	29,355	127,205	-2	-22,574	-3	-18,250	-5,475	-23,725
合　計		新　規	143	329,290	37	64,800	19,440	84,240	130	288,116	24	31,900	9,570	41,470	-13	-41,174	-13	-32,900	-9,870	-42,770
		継　続	44	54,200	44	54,200	16,260	70,460	53	65,900	53	65,950	19,785	85,735	9	11,700	9	11,750	3,525	15,275
		総合計	187	383,490	81	119,000	35,700	154,700	183	354,016	77	97,850	29,355	127,205	-4	-29,474	-4	-21,150	-6,345	-27,495

別表３　令和３年度 科学研究費助成事業決定状況

【福岡看護大学】

（単位：千円）

区分 / 種目			令和２年度						令和３年度						前年度比較増減(R3-R2)					
			申請件数	申請額	内定件数	内定額			申請件数	申請額	内定件数	内定額			申請件数	申請額	内定件数	内定額		
						直接経費	間接経費	計				直接経費	間接経費	計				直接経費	間接経費	計
文部科学省	新学術領域研究	新　規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継　続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小　計	新　規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継　続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		文科省合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日本学術振興会	基盤研究(S)	新　規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継　続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	基盤研究(A)	新　規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継　続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	基盤研究(B)	新　規	2	16,847	1	4,000	1,200	5,200	1	10,822	0	0	0	0	-1	-6,025	-1	-4,000	-1,200	-5,200
		継　続	0	0	0	0	0	0	1	3,900	1	3,900	1,170	5,070	1	3,900	1	3,900	1,170	5,070
	基盤研究(C)	新　規	14	25,630	3	3,800	1,140	4,940	17	29,316	8	8,800	2,640	11,440	3	3,686	5	5,000	1,500	6,500
		継　続	12	9,100	12	9,100	2,730	11,830	9	8,200	9	8,200	2,460	10,660	-3	-900	-3	-900	-270	-1,170
	挑戦的研究（開拓）	新　規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継　続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	挑戦的研究（萌芽）	新　規	2	6,280	0	0	0	0	2	4,175	1	1,400	420	1,820	0	-2,105	1	1,400	420	1,820
		継　続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	若手研究	新　規	3	6,807	1	1,700	510	2,210	0	0	0	0	0	0	-3	-6,807	-1	-1,700	-510	-2,210
		継　続	3	1,500	3	1,500	450	1,950	4	2,800	4	2,800	840	3,640	1	1,300	1	1,300	390	1,690
	研究活動スタート支援	新　規	3	3,110	0	0	0	0	4	4,359	1	500	150	650	1	1,249	1	500	150	650
		継　続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小　計	新　規	24	58,674	5	9,500	2,850	12,350	24	48,672	10	10,700	3,210	13,910	0	-10,002	5	1,200	360	1,560
		継　続	15	10,600	15	10,600	3,180	13,780	14	14,900	14	14,900	4,470	19,370	-1	4,300	-1	4,300	1,290	5,590
		学振合計	39	69,274	20	20,100	6,030	26,130	38	63,572	24	25,600	7,680	33,280	-1	-5,702	4	5,500	1,650	7,150
合　計		新　規	24	58,674	5	9,500	2,850	12,350	24	48,672	10	10,700	3,210	13,910	0	-10,002	5	1,200	360	1,560
		継　続	15	10,600	15	10,600	3,180	13,780	14	14,900	14	14,900	4,470	19,370	-1	4,300	-1	4,300	1,290	5,590
		総合計	39	69,274	20	20,100	6,030	26,130	38	63,572	24	25,600	7,680	33,280	-1	-5,702	4	5,500	1,650	7,150

※研究代表者として採択となっている課題のみ記載

別表４　令和３年度 科学研究費助成事業決定状況

【福岡医療短期大学】

（単位：千円）

区分 / 種目			令和２年度						令和３年度						前年度比較増減(R3-R2)					
			申請件数	申請額	内定件数	内定額			申請件数	申請額	内定件数	内定額			申請件数	申請額	内定件数	内定額		
						直接経費	間接経費	計				直接経費	間接経費	計				直接経費	間接経費	計
文部科学省	新学術領域研究	新　規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継　続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小　計	新　規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継　続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		文科省合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日本学術振興会	基盤研究(S)	新　規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継　続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	基盤研究(A)	新　規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継　続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	基盤研究(B)	新　規	0	0	0	0	0	0	1	6,100	1	4,400	1,320	5,720	1	6,100	1	4,400	1,320	5,720
		継　続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	基盤研究(C)	新　規	6	12,037	0	0	0	0	6	13,928	0	0	0	0	0	1,891	0	0	0	0
		継　続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	挑戦的研究（開拓）	新　規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継　続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	挑戦的研究（萌芽）	新　規	9	13,913	0	0	0	0	9	21,749	0	0	0	0	0	7,836	0	0	0	0
		継　続	1	1,400	1	1,400	420	1,820	1	1,900	1	1,900	570	2,470	0	500	0	500	150	650
	若手研究	新　規	1	2,720	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-1	-2,720	0	0	0	0
		継　続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	研究活動スタート支援	新　規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継　続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小　計	新　規	16	28,670	0	0	0	0	16	41,777	1	4,400	1,320	5,720	0	13,107	1	4,400	1,320	5,720
		継　続	1	1,400	1	1,400	420	1,820	1	1,900	1	1,900	570	2,470	0	500	0	500	150	650
		学振合計	17	30,070	1	1,400	420	1,820	17	43,677	2	6,300	1,890	8,190	0	13,607	1	4,900	1,470	6,370
合　計		新　規	16	28,670	0	0	0	0	16	41,777	1	4,400	1,320	5,720	0	13,107	1	4,400	1,320	5,720
		継　続	1	1,400	1	1,400	420	1,820	1	1,900	1	1,900	570	2,470	0	500	0	500	150	650
		総合計	17	30,070	1	1,400	420	1,820	17	43,677	2	6,300	1,890	8,190	0	13,607	1	4,900	1,470	6,370

別表５　令和３年度　外部研修等受講一覧表

所属	受講日	研　修　等　名	場 所	参加者
企画課	11/30	大学の教育改革に関する研修（基礎コース）	オンライン	谷　賢太朗
総務課	10/13	人権・同和問題公正採用選考人権啓発推進員研修	福岡市	石橋　慶憲
	10/29	ICTを用いた同時双方向型の遠隔授業に関するSD研修	オンライン	飯尾　寛人
	11/26	日本私立学校振興・共済事業団 事務担当者向け説明	福岡市	和田　寿晴
	11/26	改正育児・介護休業法等説明会&ハラスメント防止研	オンライン	田島　大寛
	11/26	改正育児・介護休業法等説明会&ハラスメント防止研	オンライン	飯尾　寛人
	12/13	働き方改革関連法に関する説明会	オンライン	田島　大寛
教育研究支援課	11/30	私立大学教育研究充実協議会「Society5.0時代の高等教育」	オンライン	和才　広輝
	11/30	大学の教育改革に関する研修（基礎コース）	オンライン	宮﨑　智美
財務課	12/15-12/17	令和３年度 私学スタッフセミナー	広島市	森田　　俊
学務課	9/1	ビジネスマナー基礎研修	オンライン	髙松　裕一
	10/29	ICTを用いた同時双方向型の遠隔授業に関するSD研修	オンライン	松尾　優太
	11/30	大学の教育改革に関する研修（基礎コース）	オンライン	福吉　真季
情報図書館課	8/30-8/31	各層別サイバーセキュリティ研修（CSIRT 研修（基礎編））	オンライン	廣池　元信
	9/13-9/15	各層別サイバーセキュリティ研修（CSIRT 研修（応用編））	オンライン	平野　太一
	10/26-10/29	大学図書館職員短期研修	オンライン	木村　弥生
	11/30	大学の教育改革に関する研修（基礎コース）	オンライン	廣池　元信
病院事務課	12/3	ファシリテーション研修	オンライン	深川　慎吾
教育支援・教学IR室事務室	11/17	大学改革フォーラム『学生の自律的学修に向けてのＤＸの推進』	オンライン	赤間　尚希

別表6　令和3年度教職員研修

＜令和３年度研修基本方針＞

教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、教職員が必要な知識及び技能を習得させ、その能力及び資質を向上させることを目的とする。

その他、本基本方針を達成するため、都度必要な研修を行うことがある。

○階層別研修

研修名		対象者	研修内容	実施日	受講者数
1	採用時研修	新規採用事務職員	施設見学・大学教職員の基礎知識等	7月7日	3名
			フォローアップ研修① 「先輩職員からのメッセージ 及び自身の目標設定について」	11月10日	6名
			フォローアップ研修② 「初年度の反省と、２年目に向けて」	令和4年3月16日	4名
2	若手・中堅職員研修	係長・主任・事務職員 （51名）	本学の経常費補助金及び改革総合支援事業について	11月24日 ビデオ受講実施	56名

○専門別研修

題　材		対象者	研修内容	実施日	受講者数
1	ハラスメント	管理職（90名）	「パワハラ・アカハラ等防止について」	10月7日 ビデオ受講実施	97名
2	厚生補導	教職員（310名） ※嘱託職員も含む	学生の多様性（LGBT)について	8月4日 ビデオ受講なし	102名
3	教　育	事務職員（96名） ※嘱託職員も含む	歯科医師国家試験合格に向けた 低学年の教育サポート体制について	9月15日 ビデオ受講実施	100名
4	自己点検評価	看護大教職員 （42名）	看護大学における内部質保証について	9月2日	42名
5	コンプライアンス	研究に携わる教職員 （371名）	「コンプライアンス研修」	オンライン受講	371名
6	ハラスメント	管理職以外の教職員	仮題 同僚間でのハラスメントについて	来年度に延期	－
7	人事考課	課長・課長補佐 （17名）	「人事考課のための考課者研修」	12月27日	17名
8	年　金	希望者	年金等退職後の手続きについて	令和４年1月7日	26名

○私学関係団体の研修

研修名		対象者	研修内容	実施日	受講者数
1	西部地区五大学 ﾌｧｼﾘﾃｰｼｮﾝ研修	事務職員	ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰとして必要な基礎的知識・手法の習得等	12月3日	1名
2	私大協・九州支部 中堅職員研修会	勤務年数5年以上の 事務職員	全体研修・班別研修	実施なし	－
3	西部地区五大学 ﾋﾞｼﾞﾈｽﾏﾅｰ研修	勤務年数1～3年程度	ビジネスマナーの基本	9月1日～8日 録画配信による受講	4名

別表７

令和３年度　西部地区五大学連携懇話会研修参加者

受講日	研　　修　　名	主　催	場所	参加者
9/1	ビジネスマナー基礎研修	中村学園大学	オンライン	髙松　裕一
11/17	大学改革フォーラム『学生の自律的学修に向けてのＤＸの推進』	西南学院大学	オンライン	赤間　尚希
11/30	大学の教育改革に関する研修（基礎コース）	福岡大学	オンライン	宮﨑　智美
11/30	大学の教育改革に関する研修（基礎コース）	福岡大学	オンライン	廣池　元信
11/30	大学の教育改革に関する研修（基礎コース）	福岡大学	オンライン	福吉　真季
11/30	大学の教育改革に関する研修（基礎コース）	福岡大学	オンライン	谷　賢太朗
12/3	ファシリテーション研修	九州大学	オンライン	深川　慎吾

令和３年度　福岡未来創造プラットフォーム参画大学共同SD研修

受講日	研　　修　　名	主　催	場所	参加者
10/29	ICTを用いた同時双方向型の遠隔授業に関するSD研修	福岡大学	オンライン	飯尾　寛人
10/29	ICTを用いた同時双方向型の遠隔授業に関するSD研修	福岡大学	オンライン	松尾　優太